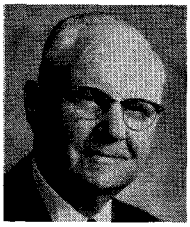
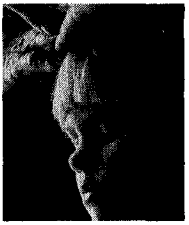
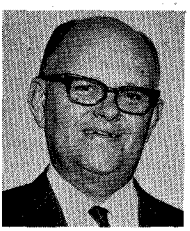
聖徒の道　1978年5月20日発行（毎月1回20日発行）　第22巻第5号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

聖徒の道

5 1978



末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会
スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会
エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・スティブレー
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト

顧　問
マリオン・D・ハンクス
ロバート・D・ヘイルズ
ディーン・L・ラーセン
リチャード・G・スコット

教会誌編集主幹
ディーン・L・ラーセン

国際機関誌
ラリー・ヒラー（編集主幹）
キャロル・ラーセン（編集副主幹）
ロジャー・ギリング（デザイナー）

「聖徒の道」
八木沼　修一（翻訳部長）

もくじ

思いやりのある言葉を掛ける……マリオン・G・ロムニー…… 1
祈り：すべての人が利用できる伝道の手段……ディーン・L・ラーセン…… 4
質疑応答…… 7
創造性に富んだレッスン……リロイ・バーニー……10
ペン……アール・ストーウェル……13
ローカル・ニュース……17
うみのみずは　なぜしおからいの？……21
わたしは　だれでしょう？……24
コリーのかくにん……26
ジャネットの伝道……ベギー・ミルズ……28
自由意志か，霊感か……ブルース・R・マッコンキー…31
日々の恵み……39
家庭における生産と貯蔵について……43

表紙の説明：末日聖徒の美術家　マックレイ・マグレビー画，海辺の少年。

聖徒の道 5月号
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5—8—30
印刷所　株式会社　精興社
配　送　東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4—9—19
定　価　年間予約1,700円　1部150円
海外予約1,700円
INTERNATIONAL MAGAZINE Printed in Japan

郵便振替口座番号　東京0—41512
口座名　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

思いやりのある言葉を掛ける

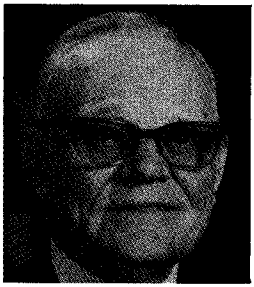
第二副管長
マリオン・G・ロムニー

「わたしは主がわれわれになされたすべてのことによって，主のいつくしみと，主の誉れとを語り告げ，また，そのあわれみにより，その多くのいつくしみによって，イスラエルの家に施されたその大いなる恵みを語り告げよう。」（イザヤ63：7）

今月のメッセージで私が訴えたいのは，己の舌を制し，互いに思いやりのある言葉を掛け合うことによって，このイザヤの言葉にあるように，主がご自分の民に抱いておられる深い慈愛を私たちの人間関係の中で互いに示し合うということである。

イエスは言われた。「人によくしてやり，また何も当てにしないで貸してやれ。そうすれば受ける報いは大きく，あなたがたはいと高き者の子となるであろう。いと高き者は，恩を知らぬ者にも悪人にも，なさけ深いからである。

“雲とざす処に　愛の光照らさん”
（讃美歌　35番より）



あなたがたの父なる神が慈悲深いように，あなたがたも慈悲深い者となれ。」（ルカ6：35—36）

次の言葉に，他に並ぶ者のない救い主の慈悲深さが端的に表現されている。

「キリストに対して，最後に思いやり深い言葉をかけたのは盗人であった。キリストはその思いやりを快く受け入れ，盗人をお赦しになった。」（ロバート・ブラウニング，*Bartlett's Familiar Quotations*「バートレット引用集」第13版，1955年，p.573—6）

イエスがこの盗人をお赦しになったかどうかはわからないが，「あなたはきょう，わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」（ルカ23：43）という言葉には，イエスの思いやりがにじみ出ている。

イエスはまた，ご自身を十字架にかけた者のために，「父よ，彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか，わからずにいるのです」（ルカ23：34）と祈られた。

パウロは，エペソ人への手紙の中で次のように述べている。

「……わたしは，あなたがたに勧める。……できる限り謙虚で，かつ柔和であり，……平和のきずなで結ばれて，聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。……悪い言葉をいっさい，あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば，人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って，聞いている者の益になるようにしなさい。……

すべての無慈悲，憤り，怒り，騒ぎ，そしり，また，いっさいの悪意を捨て去りなさい。互に情深く，あわれみ深い者となり，神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように，あなたがたも互にゆるし合いなさい。」（エペソ4：1—3，29，31—32）

使徒ヤコブも，彼の手紙の中でこのような勧告を与えている。

「聞くに早く，語るにおそく……あるべきである。」（ヤコブ1：19）

それからヤコブは，実際に言葉を制することについて，信心深い振りをしながら実は無遠慮にあからさまに言う人と，舌を制することのできる人とを対照させて，次のように述べている。

「もし人が信心深い者だと自任しながら，舌を制することをせず，自分の心を欺いているならば，その人の信心はむなしいものである。」

また，このようにも言っている。

「もし，言葉の上であやまちのない人があれば，そういう人は，全身をも制御することのできる完全な人である。」（ヤコブ1：26；3：2）

全身を制御すること，これは高尚な目的である。しかしながら，そこに達するには実際に努力をしなければならない。それというのも，舌は全身から見れば小さな器官ではあるが，疲れ切ってしまうことはまずないからである。ヤコブはそれをふたつの例をあげて教えている。つまり，馬の口にくつわをはめるなら「その全身を引きまわすことができる」という例と，船体の大きな船が激しい風に吹

きまくられても，ごく小さな舵ひとつで思いのままに操縦できるという例である。これと同じように，舌は小さな器官であるが，大言壮語し，大きな火を燃え立たせることがある。ヤコブは，舌を，全身を汚し，「生存の車輪を燃や」す「不義の世界」であるとしてとがめる一方，「あらゆる種類の獣，鳥，這うもの，海の生物は，すべて人類に制せられるし，また制せられてきた。ところが，舌を制しうる人は，ひとりもいない。それは，制しにくい悪であって，死の毒に満ちている」と指摘している（ヤコブ3：2—8）。

それから2千年近くを経た今も，ヤコブが力強く勧告したその制しにくい悪と私たちの戦いは続いている。つまり，昔の聖徒と同様，末日聖徒もこの悪を超越していないのである。

イエスやパウロやヤコブの時代よりはるか昔，旧約時代の予言者たちも同じ教えを説き，同様の勧告を与えている。賢明な箴言の作者の言葉に耳を傾けてみよう。

「柔らかい答は憤りをとどめ，激しい言葉は怒りをひきおこす。

知恵ある者の舌は知識をわかち与え，愚かな者の口は愚かを吐き出す。……

優しい舌は命の木である。乱暴な言葉は魂を傷つける。……

だれが賢い妻を見つけることができるか，彼女は宝石よりもすぐれて尊い。……

彼女は口を開いて知恵を語る，その舌にはいつくしみの教がある。」（箴言15：1—2，4；31：10，26）

アメリカにおいて，ベンジャミン王は両親に対して，自分の子供が「神の律法に背き互いに争ったり戦ったりして，私たちの先祖が言った悪魔すなわちあらゆる義しさの敵であって罪の頭である悪魔に仕えることを」許さないようにと教えている（モーサヤ4：14）。

一方この末日において，主は教会が組織される1年以上前に，伝道の業に働く資格を次のように示しておられる。

「信仰，徳行，知識，節制，忍耐，兄弟の親切，敬虔，慈悲，謙遜，勤勉などの諸徳を忘るることなかれ。」（教義と聖約4：6）これは，このような徳が伝道活動に不可欠であることを示すものである。

後に主は，それらの徳を神権の権能を行使する時の必要条件として具体的に述べておられる。

「如何なる権力も勢力も，神権によりて維持する能わず，または維持すべきものにあらず，ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。

また，親切と浄き知識すなわち偽善にあらず奸智にあらずしてその人を甚だ大いならしむるものによる。」（教義と聖約121：41—42）

「思慮分別のある話し方は雄弁よりも尊い。また，相手に快い言葉をかけることは，美辞麗句を並べたてた言葉にはるかにまさる。」（「バートレット引用集」第13版，1955年，p.121-a）

予言者ジョセフ・スミスは，当時の扶助協会の姉妹たちに，「舌は 制しにくい器官である」として，このような勧告を与えている。「取るに足らないことを語ってはならない。というのは，小さなうわさ話が世間に火をつけるからである。」（*History of The Church of Jesus Christ of Latter-Day Saints*「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」5：20）

従って，私たちは己の舌を制し，主の慈愛に満ちた思いやりに倣って，互いに思いやりのある言葉を掛け合うようにしようではないか。

門戸は閉ざされ，国境は封鎖されている。

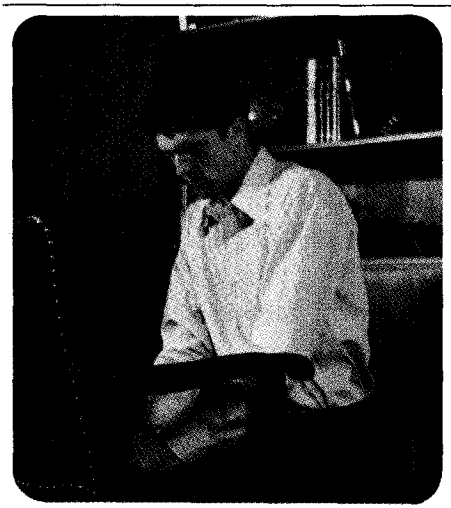
大勢の宣教師が入国を許された国々で人々の救いに献身的に従事している一方で，なお多くの国々が，回復された教会のメッセージを受け入れようとしない。しかもその国々は，世界人口の半分以上を擁している。

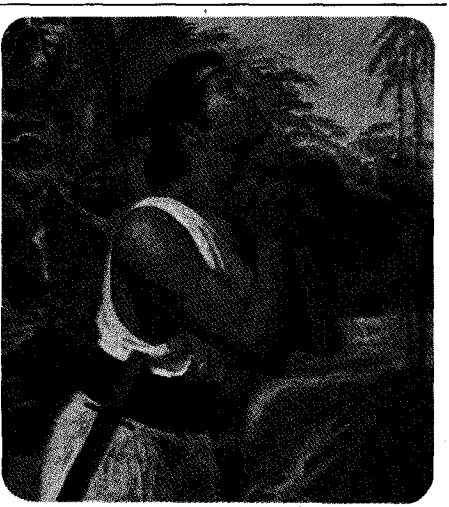
私たちは，「もろもろの国民」にこのメッセージを宣べ伝えるように命じられている。では私たちは，どのようにすればそれができるだろうか。スペンサー・W・キンボール大管長が語っているように，閉ざされた国々の門戸を開くためには，外交と同時に，教会の指導者と会員の信仰が必要である。「兄弟たち，私は，とにかく私たちの能力でできる限りのことを行なったならば，主は門戸を開く方法を示して下さると思う。これは私の信仰である。」（「聖徒の道」1974年11月号，p.482）キンボール大管長はこのように語っている。

教会は，それらの門戸をハンマーで強引に打ち壊すようなことはしない。むしろ主を代表する者たちがよく気を配って少しずつ働きかけるという方法をとっている。用心深く慎重な国の指導者たちに，この教会がその国民にとって極めて有益であること，イエス・キリストの福音は不和を起こさず，協力の精神を培うこと，そしてモルモンの宣教師はその国の文化に害を与えず，むしろ家庭と家族を強めることによって文化をしっかりと根づか

祈り：すべての人が利用できる伝道の手段

七十人第一定員会会員
ディーン・L・ラーセン





せるということを理解させるように努めているのである。

けれども私たちのほとんどは，この重要な仕事に直接携わることはない。では，私たちはそのために何らかの援助ができるだろうか。その通り，私たちにできることがある。

キンボール大管長は，他の教会幹部と「祈りのキャンペーン」を開始することによってその道を開いた。それと同時に，すべての聖徒にこのキャンペーンに参加するよう求めている。「王や統治者の心を和らげ，国々の門戸を開いて下さるよう，主に心から願いを続けるならば，やがて宣教師はすべての国々に行き，認められた方法で福音を教えることができるようになるであろう。」(*Ensign*「エンサイン」1975年10月号，p.70)

祈りが国の指導者たちの心を変えるものだろうか。その通りである。私たち全員が，家族の祈りと個人の祈り，集会での祈りにおいて信仰をひとつにし，この地上における義なる目的が達成されるよう主に助けを求める時，私たちに力が注がれる。この力を，私たちは過少評価してはならない。現にモルモン経には，決して開かれないであろうと思われていた扉が，祈りの力によって大きく開かれたという感動的な証が記されている。

リーハイの子供たちが分かれて以来，義しいニーファイ人は，反抗的な兄弟のレーマン人を改宗しようと努力した。ヤコブは次のように記録している。「私たちはレーマン人を教化して再びこれに真理を悟らせるため多くの工夫をめぐらしたが，……その工夫は何の役にも立たなかった。」(ヤコブ7：24)

また，イノスも次のように記している。「私はニーファイの民が，レーマン人がもとのように神を正しく信仰するように尽力したことを証する。しかし，私たちの骨折りはむだであった。」(イノス20) このようなことがたびたびあったため（両者の間の残忍な戦争は言うまでもない），ニーファイ人はレーマン人に福音を宣べ伝えようとすることをむだだと思うようになった。そして，モーサヤの息子たちがレーマン人のところへ行こうとした時，ニーファイ人は彼らを「あざけり笑った。」(アルマ26：23)

しかし，アンモンとその兄弟たちは，過去の経験にも動じない信仰を，イエス・キリストの福音の上に築き上げていた。また，彼らは伝道の業が容易でないことを知っていたので，「非常に熱心に祈りと断食」(アルマ17：3) をして，よく準備を整えた。それから完全な信仰をもって出かけ，成功を収めたのであった。キンボール大管長が語ったように，彼らもまた，「これは私の信仰である」と言うことができたであろう。

後にモロナイは，彼らが宣教師として行なった偉大な仕事を振り返って，その成功の原因をはっきりと次のように指摘している。「レーマン人の間にあの大きな奇跡を行なったのはアンモンとその同僚たちの信仰であった。」(イテル12：15)

モルモンは，ニーファイとリーハイの伝道の業についても，同様の見解を述べている。ヒラマンのこのふたりの息子たちは，モーサヤの息子たちの歩んだ足跡を踏み，レーマン人のほぼ全員を改宗させるに至ったのであった（ヒラマン5：50—52参照)。「レーマン人の心を改めさせてかれらに火と聖霊のバプテスマを受けさせたのはニーファイとリーハイとの信仰であった」(イテル12：14) と，モロナイは記している。

このように，主は義しい人々の信仰を仲立ちとして，み業のほとんどを成し遂げておられるように思われる。確かにすべてがすべて

これだけによるというわけではない。しかし，主の民が正義にかなって信仰を働かせる時，実際に主がその信仰に応え，奇跡的な力が与えられるということは興味深いことである。

また，モルモン経にはもうひとつの良い例が見いだされる。予言者イノスが主に祈った時のことである。彼は初め，自分の霊の安らぎを求めた。その結果，主の訪れを受け，自分の罪が赦されたという確信を得るに至った。するとイノスは，さらに別なことを願った。「兄弟」であるレーマン人に主の祝福が非常に必要であると感じたのであった。

その願いに対して，主はイノスに，「汝の信仰のために，われは汝の願うところを聞きとどくべし。……汝の先祖たちもまた汝と同じことをわれに祈り求めしが，その求むることはその信仰に応じて成就すべし。かれらの信仰は汝の信仰と同じ」と答え，語りたもうた（イノス11—12，18）。

教義と聖約には，イノスに与えられた啓示の続きとも言うべき言葉が記されている。この言葉は，モルモン経の最初の116ページ（英文）の原稿が紛失し，一時金版が取り上げられた後，再び金版が戻される時に，主が語られたものである。

「而して見よ，すべてこの業の残りの部分は，誠にわが福音の中わが聖なる予言者およびわが弟子たちのこの世の人々に表されんことを祈りの中に願いしものをすべて載せたり。

而してこの願いは，彼らの祈りが必ず聞き届けらるるとの信仰によりて聞き届けられんことをわれ彼らに告げたり。

然り，誠に彼らの信ぜし信仰は，すなわち彼らの時代に彼らが説かんために与えられたる福音の，彼らの同胞たるレーマン人とまた謀叛によりてレーマン人となりたりし者にことごとく及ばんことなり。

さてこれを以て終りとせず，彼らの祈りが必ず聞き届けらるるとの信仰は，もしもこの国他の国人に占有さるることあらばこの福音のまたその人々に知られんことなりき。

かくの如く，真に彼らは何人に限らずこの国に於てこの福音を信ずる者は永遠の生命を得んことを祈りてこの土地に祝福を与えたり。」（教義と聖約10：46—50）

イノスや，モルモン経の他の偉大な予言者たちは，このように門戸を開いた人々である。彼らの信仰は，彼らの同胞だけでなく，後に約束の地に住むようになったすべての民に，祝福の門戸を大きく開いたのであった。

聖典に記された歴史を考えてみる時に，そこから大きな教訓を学びとることができるのではないだろうか。イノスやモーサヤの息子たち，ヒラマンの息子たちが行なったと同じことを，今の私たちも行なえるのではないだろうか。私たちは，キンボール大管長の語っている門戸を，信仰の祈りによって開くことができるのではないだろうか。

ますます進展しつつある伝道活動に，末日聖徒が助力できる方法は数々ある。しかし，私たち全員が時を選ばずに参加できる方法はただひとつである。それは，門戸が開かれるよう全員で心から主に祈りを捧げることである。私たちはそのようにして，現在福音のメッセージを聞く機会のない，おびただしい数にのぼる天父の子供たちに思いを寄せることができるのである。

私たちが自分自身のことから目を転じて，イノスのように深い関心と望みとをもって，現在門戸の閉ざされている国々に住む兄弟，姉妹のために信仰深く祈りを捧げる時，恐らく門戸は開かれるであろう。しかも，必要であれば，奇跡的な方法によって。

質疑応答

本誌の回答は問題解決の一助として与えられたものであり，教会の教義を公式に宣言するものではない。

ソルトレーク伝道本部部長
J・ミューレイ・ローソン

宣教師が伝道の業を行なう鍵を受けるのは，いつですか。長老に聖任される時ですか，宣教師として任命を受ける時ですか，それとも自分のエンダウメントを受ける時ですか。

大管長から伝道の召しの手紙を受ける時，その責任に伴う鍵を受ける道が開かれます。そして，宣教師として任命される時に，その業に携わる鍵を実際に受けます。

その鍵とは，「天と交通する恵みにあずかる権利であり，イエス・キリストの福音，すなわち悔い改めと，罪の赦しを得るために水に沈められるバプテスマの福音を宣べ伝える特権」です。（ジョセフ・F・スミス「福音の教義」第1巻 p.176）

主は，教義と聖約42：11の中で，次のように言っておられます。「またわれ汝らに告ぐおよそ誰か権威ある者より聖職に接手任命され……る所にあらざれば，何人といえどもわが福音を宣べんために出で行くこと，または教会を創立することを許されざるべし。」

神権とは，神に代わって働くために，人に与えられる権能です。「神権のどの職に聖任された人も，この権能が与えられている。しかし，この権能のもとに行なわれるすべての行為は，適切な時に，適切な場所で，正しく，秩序に従ってなされなければならない。

これらの働きを指示する力が，神権の鍵である。すべての鍵は一時に一人の人，すなわち予言者であり，大管長である人だけが所有している。」（「福音の教義」第1巻 p.168）

現在，スペンサー・W・キンボール大管長が，王国のあらゆる鍵を持っています。そしてこの鍵を持つ大管長には，地上における神の王国（すなわち，教会）を管理し，それに関するあらゆる事柄を指示する権利，権威，権能が与えられているのです。そして大管長は，その鍵の一部をステーキ部長や伝道部長に委任しています。ですから，これらの人々がキンボール大管長に代わって宣教師を任命する時，宣教師として働く鍵が授けられることになります。

質疑応答

十二使徒評議員会会員
デルバート・L・ステイプレー

神権に病気を治す力があるとすれば，どうして医者が要るのでしょうか。

あらゆる知識はその源が神にあり，人の利益と導きと祝福のために与えられています。従って，その知識が科学的なものであれなんであれ，神は人に人を益するために与えられている知識を賢明に利用するよう望んでおられます。ニーファイは次のように語っています。「人が最善をつくしてはじめて，神のめぐみにより救われる。」（IIニーファイ25：23）この聖句を，神権の権能によって病人を癒すことに当てはめてみると，次のように言い換えることができると思います。「あなたが最善を尽くしてはじめて，神の恵みにより神権の力によって癒される」と。このことを考えてみると，もし医師が人の病気を治すために必要な医療技術を身につけているならば，その技術を，病気を治すために必要な手段として利用すべきではないでしょうか。

医学は，病気を治すという大きな流れの中の重要な一部です。医学や医療技術の発達によって，これまで不治の病と考えられていた病気にも，様々な治療が施されるようになっています。そして，病気に冒された体も，医学による助けがあれば，生来の大きな回復力を発揮します。

人の生命は，数多くの重要な要素を基盤に成り立っています。肉体は，複雑で，相互に密接に関連し合った，数々の部分からできています。そして，それが皆，通常の状態では，健康を維持し，病気に抵抗するように働くのです。しかし，人の生活には病気やけがや災難はつきもので，どうしても，医学上，可能な限りの治療技術に頼らざるを得ません。

健康について話を進めるにあたり，主から与えられた健康の律法である「知恵の言葉」を見てみましょう。この啓示（教義と聖約89章）の中で，主は，何が人のためにならないか，また，地から生ずるものの内で何が人の

ためになるかを教えて下さいました。肉は控え目に用いるべきものです。この自然の法則に従うならば，私たちには健康が約束されます。

「知恵の言葉」を受け入れて，それに従って生活しているとすれば，医学や医者の専門技術を有効に利用することもできるのではないでしょうか。人の力には限りがありますが，神の力には限りがありません。人の力が尽きた時，神の聖なる力が，信仰深い神権者を通じて現われ，しばしば奇跡が起こるのです。

主は次のように言われました。

「汝らの中，誰にても病める者ありてその病人病を医さるべき信仰を有たざるも而もわれを信ずる時は，薬草と柔かなる食物とを与えて全く懇ろに養うべし。……

また，教会の長老を二人またはそれ以上呼びてその人の為に医しを祈り，わが名によりて按手を為すべし。……

およそわれにありて医さるべき信仰ありて，死の命を受けざる者は医さるべし。」（教義と聖約42：43，44，48）

信仰ある人々を癒す儀式が主の福音の計画の中に含まれていることを，心から感謝したいと思います。

次にあげる例から，医者と神権の癒しの力との間に，どんな医学的なつながりがあるか，理解できることでしょう。

ある医者の子供で，まだ1歳2カ月にしかならない幼児が，非常に重い病気にかかりました。そこで医師たちは，どんな措置をとるか協議しながら，治療を行なうことになりました。しかし手の施しようがなく，その協議も，病気の症状を確認する場に過ぎませんでした。そうしている間に，病状は次第に悪化してきたのです。体温は40度に上がり，家族は回復の望みを失ってしまいました。死は時間の問題でした。丁度この時，一連の奇跡が起こりました。監督と副監督が，事前の連絡もなしに見舞いに来てくれたのです。家族の求めに応じて，ふたりは子供に癒しの儀式を施しました。その祝福が終わった直後，今度は，その家族と知り合いのインターンが病室に入って来て言いました。「輸血をしてはどうですか。」そのインターンの血液型はO型でした。そこで，すぐに彼から採血して，その子に輸血しました。すると子供の体温は，40℃から平熱に下がり，その後入院している間，ずっと平熱が続きました。それまで，医学の面から講じた手だては，すべて失敗に終わっていました。医学的な見地に立てば，子供の命が失われても不思議ではなかったのです。しかし，神権者が訪れて祝福が施されるや，それまで取っていなかった措置が講じられたのです。その結果，子供の命は救われました。その子供も今は立派に成長し，美しい姉妹と家庭を築いています。

もうひとつの例は，非常に重い心臓病を患った人の話です。深夜2時頃のことです。必死に機能の回復をはかっていた努力も，徒労に終わろうとしていました。この時，ひとりの教会幹部が病室に入って来て，癒しの儀式を施しました。すると，直ちに心臓の活動が回復し，命が助かりました。現在まで，彼の健康状態は全く良好です。

以上の説明から，医療と神権による祝福を相関させることができることを理解していただけたと思います。相互に支え合い，病人を治すための効果が生み出されたのです。

確かに，医者は大切です。しかし，奇跡的に病気を治す特別な力は，神権を通じてのみ得られるのです。

創造性に富んだレッスン

リロイ・バーニー

たいていの教師は創造性というと，画家や彫刻家や作家だけのものだと考えて，毎週の自分の授業に霊的な方法を考案することがどんなに簡単か思ってもみない。

創造性に富んだレッスンというのは，何か新しい，いつもと違った，ユニークな方法で行なうレッスンのことである。多くの人は，それはその能力を持っている人から借りるものであって自分で獲得できるものだとは考えていない。タラントのたとえ話で教えられている基本的な教訓を忘れてしまっている。そのたとえ話では，持っている才能を伸ばす人はどんなに小さい才能でも大きくひき伸ばされ，自分の才能を伸ばそうとしない人はすでにある才能までも失ってしまうとはっきり言われている。

創造性を発揮してよく計画した立派なレッスンを行なうには，教師に創造のひらめきがなければならないことは確かである。また，創造性という貴重な賜も人によって豊かさ

の違いがあることは事実である。しかし，たとえいかにわずかであろうとも意識して努力すれば，創造のひらめきは，学習の炉に点火できる炎となるのである。

アービン兄弟を例に取ってみよう。彼は大学を出たばかりの青年である。人当たりの柔らかな楽天家で，深刻な問題にぶつかったことがないような人で，仲間にはおどけ者で通っていた。その彼の最初のレッスンに，日曜学校の会長会が気をまわしすぎたとしても無理はない。喜劇の独演場よろしく生徒たちの貴重な時間を無駄にしないだろうか。テキストをよく勉強して，書かれている概念を教えてくれるだろうか，と。

アービン兄弟が初めてレッスンをするという日，彼は大きなスーツケースを2個ぶらさげて現われ，会長会の危惧はやはり的中したかのようだった。過去の経験からして，皮張りのスーツケースの中身はしわくちゃに丸めた新聞紙か生きた蛇といった類のものに違いないと思った。

アービン兄弟は生徒に手伝ってもらって教室にテーブルを運び込み，祈り会の始まる前にいろいろな品物を広げ始めた。中には休憩所のくず入れから拾ってきたようなものまであった。

祈り会と開会行事が終わると，会長会のひとりがアービン兄弟を紹介するために教室までついて行った。開会の祈りと短い紹介が終わり，アービン兄弟が前に立った。彼は奥歯が見えるほどのあくびのような笑顔を見せてから，前代未聞の楽しいレッスンを始めた。アービン兄弟はテーマをよく消化しスーツケースに入れて持ち込んだ品物を使いながら要所要所をしっかり決めていった。

彼は古ぼけた定規を取り上げた。使い古して目盛りが判読できないような代物である。生徒全員にそれを見せたあとで，ただ一言，「祈りの効果はどのようにしてはかったらよいでしょうか」と質問した。

古い定規を見せられたのに刺激されて，実に興味深い熱心な話し合いが行なわれ，いつもなら黙って聞いているだけの生徒たちも発言をした。自分の考えを言葉にまとめるのが苦手の生徒はその手がかりを捜して，買ってから開いたことのないようなテキストを走り読みした。

アービン兄弟はその後のレッスンでもたくさんの品物を使いいつも笑顔を絶やさず，熟練した教師の沈着さをもって素晴らしいレッスンを展開した。第一回目のレッスンであれほど創造性を発揮した教師はめったにいないのに，彼のレッスンは回をおうごとにますます素晴らしくなっていった。

アービン兄弟が立派なレッスンをしたその秘訣は何であろうか。彼がどんな人かわからないところが興味を引いて，その上にスーツケースの中身も秘密だったせいだろうか。

アービン兄弟の成功の理由は，原則を次々と上手に応用したことである。まず，彼のレッスンは実に創造性に富んでいた。どんなテーマでも導入が生き生きとしていて，生徒の心を見事につかんだ。アービン兄弟は常に熱心で，生徒はそれを感じ，身を入れてレッスンを受けた。それがまたアービン兄弟の励みになり，ますます熱心になった。それもこれも創造性を軸にしたうれしい循環であった。

教室ではどのようにすれば創造性を働かせることができるだろうか。特にあまり創造性がないと感じる人にとってはどうだろうか。

その第一要件は，言うまでもなく，何か新しいことをしてみようという意欲である。多くの教師は，いったん身につけた教授法から少しでもはみ出すことを望まず，来る週も来る週も，それが生徒を動かすかどうかなどはおかまいなしに従来の方法に固執している。ある教師たちは失敗を恐れて，新しい，いつもと違ったことをするのを避けている。また，自分は知識の泉であるかのように考えて，聞く人にレッスンの実を残すのを逸する人もいる。このような人は，創造的なレッスンをしたら返答できないような苦境に立たされるのではないかと心配するのである。そして学校の先生のような応対をしようと努めるのである。専門の教師のほとんどは，返答できないことは恥ずかしいことだとは全く考えていないという事実を知らずに。

中には，生徒に手助けを頼まない教師がいる。末日聖徒の生徒たちは受け入れる心を持ち，理解力も能力もある。だから，教師が自分の答えられない質問は生徒たちに聞いてみれば，ためになる話をしてくれる人が何人もいるはずである。教会のクラスは混成チームである。教師と生徒は共に知識を得ることを目標としている。そして，生徒も教師と同じように，有益なものを得たいと思っている。従って，生徒をレッスンやクラス討論に参加させることが必要である。

時には，ユーモアのひと言が堅苦しさの壁を破って，創造性を打ち出してくれるであろう。生徒たちが気を張りつめていると，啓発というよりは議論のための発言になることがある。そこでレッスンの初めに，短い話やユーモラスな導入をするか，あるいは笑顔を見せれば，緊張感はとけて，生徒の気持ちがくつろいで前向きの態度になり，心を開いて受け入れる気持ちになりやすい。これらはいずれも教室で応用すると，創造性を生み出すのに役立つ。

創造的になりなさい。笑顔で緊張をほぐしなさい。テキストのレッスンを新しい方法で教えることを恐れてはならない。役立つならば視覚教材を使いなさい。レッスンの内容をよく消化して，テキストを使わなくてよいようにしなさい。要点を書いておくだけでたいていのレッスンは行なえるものである。不測の事態や予期しない質問にいつでも答えられるように用意しておきなさい。創造的なレッスンは予測しがたいレッスンであるということを心に留めておきなさい。

最後に，創造性といっても，生徒がレッスンについてまじめに深く考えるきっかけを与えるものでなければ，教室で用いる価値はない。従って，創造的なレッスンをするためには，次のことを考え祈って尋ねてみることである。どのようにすれば，レッスンの本質を最も良く教えることができるか。このテーマについては，どのようなことが生徒の関心を引き，生徒の思考を促すか。話し合う場合，どのように切り出したらよいか。教材を使うなら，どんなものが使えるだろうか。ロールプレーイングや，発表をしてもらうとしたら，レッスンのどこでそれを行なったら一番効果的か。最少の時間で最大の効果をあげるには，どうすればよいか。

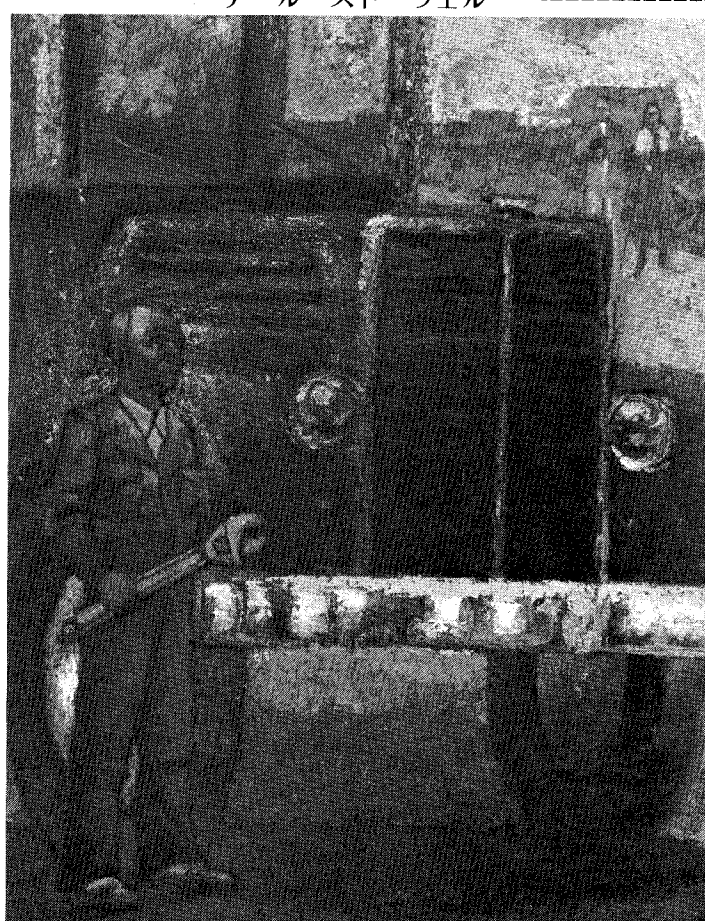
必ずしもアービン兄弟のように毎週教室に2個のスーツケースを運び込む必要はない。しかし，生徒をもっと活気づけ，討論を活発にし，以前よりも楽しいレッスンにしたいと思うならば，創造性に富んだレッスンを行ない，生徒の熱意を燃え立たせることである。

ベン

ベンが教訓を残してくれてから，何と多くの歳月がたってしまったことか。あの印象深い教訓は，是非とも後世に語り伝えたいものである。その話は，監督からの電話で始まる。「今度の日曜日の夜8時に，奥さんと御一緒に監督室においで願えませんか。」監督は，そのような電話を受ける人がその日までどのような気持ちで過ごすかを知っていただろうか。特に，それが，週の初めの場合はなおさらである。

監督室を訪れた私たちに，監督はこう言った。「今日お呼びしたのは，不活発な家族を少し訪問していただきたいと思ったからです。御夫婦で力を合わせればこれまでどうしても成功しなかった家族に，道を開くことができると思うんです。」私たちは快くその責任を引

アール・ストーウェル



き受けた。

数日後，私たちは，ひるみがちな心にむち打って，行動を開始した。ところが，何軒かにそっけなく断わられるうちに，私たちの気持ちは，だんだんと弱まり始めた。そこで訪れたのが，問題のベンの家である。私は背が低いので，普通，人と話す時は，どうしても見上げる姿勢になるのだが，今回は逆でドアが開くと同時に，見下ろすことになってしまった。

戸口に現われたのは，身長が150センチにも満たない小さな人で，おまけにとてもやせていた。体重を50キロの大台に乗せるためには，鉄の座金をポケットいっぱいに入れ水をたっぷり含んだ服でも着るしかないだろうと思われた。その上，年を取っていた。しかしその直立した姿勢と，きびきびした動きからは，年に似合わない若さがうかがえた。目は細くて鋭く，切れ長で口は顔の下の方にあって深い裂け目のようになっており，まるで一方の耳から他方の耳まで裂けているようであった。そして，皮膚はと言えばまるでなめし皮であった。

私たちは，近所に住む教会員で，親しくなるためにやってきました，と告げた。彼は不愉快そうではあったが，私たちを狭い居間に通してくれた。そこには立派な灰皿が置いてあった。しかし，私の妻が持ち前の人柄で打ち解けた雰囲気にしたため，私たちは間もなく心を開いて話し合えるようになった。彼がトラックを運転していると言うので，私は最初，小型トラックのことだと思った。ところが大型のダンプカーだということがわかり，私はびっくりしてしまった。

「運転手というのは，普通体格がいいでしょう。それをどのように……」

彼は私の言葉をさえぎって言った，「30センチ程あるレンチを座席の所に置いておくのさ。みんなそのことを知ってるよ。それでまあ対等といったところかな。」さらに話は続いた。「なぜ仕事をやめないかって。72歳を過ぎたらやめるさ。でもまだまだだよ。」彼は自分でトラックを持っていて，会社の請負仕事をするのだという。なんでも，彼は同業者の中でも真っ先に声がかかるという話であった。

何カ月かたつうちに，私たちはベンの家を訪問するのが楽しみになった。ある晩，私たちが訪ねて行くと，ベンはトラックのホッパーにしがみついて，長さがベンの身長程もあろうかと思われる大きなレンチの端に足をのせて，何度も飛びはねていた。私たちが近づいて行くと，やっとナットがゆるんだ。ベンはそこから飛び降りると，大きなレンチを引きずって，トラックの運転席の所まで運んで行った。それから彼は戻ってきて，額の汗をぬぐうと，こう言った。「フー，やっと何とかなったよ。今晩，仕事を終えようとしたら，後ろのギヤがぎしぎし言い始めるんだ。明日の朝，新しいのがくることになってるんで，準備しておかなくちゃならないんだ。昼までには仕事に戻るつもりさ。遅れた分を取り返すのには，少し時間がかかりそうだよ。」

その晩，ベンは随分疲れている様子だった。そこで，私たちは早々に引き揚げることにした。帰り際，ベンは私たちを見上げて，こう尋ねた。「おれがしなくちゃならないことを，いつになったら教えてくれるのかね。たばこをやめろとか，神権会やそのほかの教会の集会に出席しろとか，そういうことをさ。」

私は答えた。「ベン，そりゃあ，あなたがそうしてくれたら，私たちはうれしいですよ。でも，それを決めるのは，あなたなんですよ。何をしたらいいか，あなたはもう知っているんだからそれを教えようとすることは，あなたを侮辱することでしょう。私たちがあなたに会いに来るのは，ただ，あなたがいなければ私たちの家族は完全になれないからなんですよ。」ベンは私の手をしっかりと握りしめた。

週末に近づいてから，電話がかかってきた。「神権会は何時からだい。」

私は時間を教えてから，教会へ行く途中に寄りましょうかと尋ねた。

「いや，道は知ってる。それに第一，自分の行かなきゃならない所へ行くのに，人の助けはいらないよ。」

ベンは教会に来ようとしていたのだった。「でも，たばこをやめるまで中へ入らない方がいいな」と彼が言うので，私は，主の助けがあればもっと簡単にやめられることを話した。「8つの頃からたばこを吸ってるんで，やめられるかどうか，自信はないよ。」私は，できるはずですよ，と重ねて言った。

ベンは，正式の教育もほとんど受けておらず，体も小柄でまた決して若くなかった。けれどもやがて大勢の友達ができて長老定員会主催の行事に積極的に参加するようになった。

そのようなある晩，ベンから電話があった。「話したいことがあるんだ。」ベンの声は上ずっていた。「ワードティーチャーになってくれって言うんだ。そんなこと，できるわけがないだろう。たばこだって吸ってるし，おれは，何にも知らないんだ。自分で知らないことを，どうやって教えればいいんだい。おまけに，今，人が足りないから，同僚はつかないって言うんだ。一体，何をすればいいんだ。」

これには私も驚いた。ベンは私たちにとって特別な存在で，もう二度と不活発にはさせたくない。私は心の中で一生懸命に祈った。そして深呼吸をしてから，こう言った。「ベン，私たちが今まであなたに何をしたらいいか教えようとしたことがありましたか。」

「いや，ただおれのことに気を配ってくれただけだ。お陰で，自分の価値がわかるようになった。多分，それだから，自分で教会へ行くようになったんだろう。」

「私たちはあなたに会った時，一生懸命にやろうと思いました。あなたはそんな気持ちを起こさせてくれたんです。今度は，あなたがほかの人々を訪ねて関心を示す番じゃないですか。とても大切な人々だから時々訪ねたいって言うんですよ。それから，自分でなにか価値があると思われる話や，是非聞かせてあげたいと思う話をするんですよ。」

しばらくの沈黙の後，ベンは言った。「よーし，なんとかやってみよう。」

私は，職場からの帰りに，ベンの担当する家族の住んでいる通りをよく通ったものである。ベンの担当する家族は皆，不活発であった。その大部分は夫婦の一方が非教会員の家族であり，また教会から長い間遠ざかっている家族もあった。ある晩，ベンが大きなすいかを運んでいるのに出会った。その年に，まだ見たこともないような大きなすいかである。ベンは，必死にすいかをかかえて歩いていた。マーケットから3ブロック程あっただろうか。私が車を運転しながら見ていると，ベンは一軒の家へ入って行った。

次にベンと会った時に，私はそのことを話した。彼は恥ずかしそうにうつむいて，こう言った。「うん，あの日，家へ帰る途中で，マーケットの前を通りかかったんだ。その時，あの家の子供のことを思い出してね。父親は失業中だし，今年はまだすいかがあまりなくて高いから，あの子供たちはまだ食べていなかったんだ。それに，どの子にも，望んだら何でも手に入るということを知ってもらいたかったので，店で一番大きいすいかを買ったというわけさ。」

それから何日かたったある夕方，またベンを見かけた。今度は，大きな誕生カードを持って，いそいそと歩いていた。ベンはそのことを後になってこう説明してくれた。「あの女の子は男の兄弟ばかりで，家族の注目が男の子たちにばかりいくんだ。だから，手紙で出す代わりに直接持って行くことにしたのさ。そうすれば，あの子だって自分が大切に思われていることがわかるだろう。2週間くらい前だったかなあ，子供たちが人形の腕をもぎ取ってしまったんだ。するとあの女の子はその人形がかわいそうだと言うんだ。そこで，おれは，人形を家に持ち帰って，引出しからボタンかけを出して，腕をささえていたスプリングを探り出したのさ。人形は立派に直ったよ。一晩かかったけどね。でも，あの子に

渡した時，やってよかったと思ったよ。今じゃ，行く度に，あの子は人形を抱いて，おれの前に座って，頭をすり寄せて来るんだ。」私はベンの話に感動した。

それからしばらくして，電話があった。ベンの声は弾んでいた。「おれがワードティーチングしている女の子が，バプテスマを受けるんだ。」だれの目にも明らかな成果だった。私もうれしくて，飛び上らんばかりだった。妻は喜びのあまり，涙を流していた。

それまでの5年間，それらの家族は，ワードティーチャーの訪問か，家庭訪問教師からの時折の電話以外，教会とはこれと言った接触を持っていなかった。しかし，次の3年間で8回も，ベンは私に喜びの電話をくれた。いつも興奮さめやらない様子で，もうすぐバプテスマがあるとか，男の子の神権昇進があるなどといった祝福について話してくれたのである。私は，どうしたら他人の生活にそれ程影響を与えることができるのか，尋ねてみた。「言われた通りにしただけさ。『おれはあんたたち程立派な人間じゃないし，あんたたちが何をしなくちゃならないか教えに来たわけじゃない。おれが訪問しているのは，ただ，主が家族に霊の糧を得る食卓を用意して下さっているから，一緒に食事をしないと，空席ができてしまって，家族が完全じゃないような気がする』って言ったんだよ。」

ワードティーチングがホームティーチングに変更になった時，私たちのすることと言えば，ベンの実践を模範として用いることだけであった。

ベンは大家族の中にあって，まさに嵐のような存在となった。家族の中で活発なものはほんのわずかしかいなかった。そこでベンは不活発な家族を呼んで事情を説明させたのである。また，孫に働きかけては，彼の関心を引き出し，伝道に出した。そしてブリガム・ヤング大学にも入学させたのである。ところが，その孫が大学で若い女性と知り合った時，ベンの，これまでになく困難な戦いが始まった。

「たばこをやめるまで，孫たちと一緒に神殿へ入れてくれないって言うんだ。助けてくれないかい」と言って来た。人もまばらな早朝に電話をかけてきて自分のために祈って欲しいと言ってくることが，一度ならずあった。なかなかつらい決断であった。しかし，ベンはついに勝利者となった。神殿で初めて一緒にエンダウメントの儀式を受けた時の，ベンの表情を私は忘れない。

ところが，私たち夫婦が3日間の休暇旅行から帰ってきた時のことである。その翌朝，ベンは神権会に出席していなかった。そこで私はベンはどこにいるのか尋ねた。すると監督は，「彼は今，入院中だよ」と答えた。私が，見舞いに行ってくると言うと，監督は首を振った。「今，昏睡状態なんだ。ひどい脳出血でね。」ベンの意識は，そのまま戻らなかった。

私たちは，大きな葬儀を開くつもりはなかった。しかし，弔問客が次々に訪れるので，文化ホールとの間の大きなドアを開いて，急いで椅子を並べなければならない状態になってしまった。彼がホームティーチングをしていた家族も，4，5家族参列していた。そうした中で，非教会員の主人のひとりが，当惑顔で立っている人を私に紹介してくれた。その人は，「私は自分がなぜここへ来なければならないのかわからないんです。でも，この御主人が来てご覧なさいと言うものですから。一日仕事を休んででも，葬儀に出るだけの価値がある人物だと言うんですよ。」私が死んだ時に，だれかが，私に縁もゆかりもない人を誘ってきてくれるだろうか。いや，そんなことはあり得ないだろう。その人は感嘆した様子で，「この方はきっと立派な方だったんですね。本当に立派な」と言った。

すると，その人を連れてきた御主人がこう言った。「この人は私たちの家族でしたよ。血のつながりはないけれど，正真正銘，家族同然の人だった。」

盲目のピアニスト

伊藤　清兄弟

―人々の胸をうつ証と演奏―

3月11日（土）午後6時30分からヤマハ広島センターのホールにおいて，盲目のピアニスト伊藤清兄弟のピアノ・エレクトーンコンサートが，広島支部の主催で開かれました。会場には300人余りの人々が集まり，月光，小犬のワルツ，英雄ポロネーズなど十数曲の演奏を熱心に聞入っていました。当日夜のテレビニュースもこの演奏会をこう紹介しています。

「……目の不自由な伊藤清さんの演奏会が，今夜広島市で開かれ，集まった人たちの感動を呼んでいました。これは広島市内のキリスト教会が体のハンディキャップを乗越えた人のすばらしい演奏を聞いてもらおうと，伊藤さんを呼んで開いたもので，会場の音楽教室のホールには，市民およそ300人が集まりました。

大阪豊中市に住む伊藤清さんは，小学校5年生の時からピアノを習い始めました。点字の楽譜を，指でなぞりながら鍵盤をたたくという困難な練習を続けた結果，高校3年の時には大阪府の高校音楽コンクール・ピアノ部門で優勝しています。今日はベートーベンの『月光』を始め，ショパンの『雨だれ』や，モーツアルトの『トルコ行進曲』などあわせて17曲を披露しました。……」（ＮＨＫ）

伊藤清兄弟はこれまでに，沖縄，青森など

からも招待を受け，見事な演奏を披露してこられました。昨年11月，豊中市立熊野田小学校で開かれた「親と子のつどい」では，父兄や児童850人を前に演奏し，人々の心を打ちました。その模様を新聞は次のように報じています。

「盲人演奏に感動・ピアノの伊藤さん努力また努力・『何かをしてみたいと思うたびに周囲の反対にあったが，逆に何くそと，それまで以上の努力を重ねた』などと語りかけ，感動を呼んでいた。」（朝日新聞）

「盲目ピアニストに感動の渦・白鳥の湖やトロイメライ・躍動するメロディー。ママや子供の前で軽やかに演奏する目の不自由な伊藤

演奏中の伊藤清兄弟

さんに会場の体育館いっぱいになった子供やお母さんたちは感動を抑え切れないように大きな拍手を送っていた。」（読売新聞）

広島の演奏会後のインタビューに，伊藤兄弟は次のように語ってくれました。

ピアノを始められたのはどのようなきっかけからですか。

「小学校5年生の頃です。経済的に貧しい家に育ったので，お弁当を持って行けない日が多くありました。そんなお昼の時間は，音楽室でピアノをいじっていました。ある日，音楽の先生がこられ『そんなにピアノが好きだったら手ほどきをしてあげよう』ということになりました。お弁当を持って行けないことが縁になり，その先生から教えてもらいました。」

その後の練習はどんな方法で続けられましたか。

「ピアノが家にないので，学校や幼稚園のを借りて練習しました。点字の楽譜は，右手左手とわかれていますので，片一方を覚えたら反対側を覚え，両方できたら合わせるという方法で学んできました。これは時間もかかりますし，神経も使います。現在覚えているのはポピュラーも含めて1000曲以上になると思います。」

目が見えなくて，鍵盤を高い方から低い方へと飛ぶような場合の間隔は，どのようにして覚えられますか。

「これはもう何度も何度も練習して，体で覚えてしまうよりほかに方法はありません。たとえば『乙女の祈り』の曲なども，音が大きく飛び手が交差するようになりますが，これを覚えるのに6か月かかりました。手が交差した時の間隔を覚えるのに2か月かかっています。何度も何度もやって見て，体で覚え込むよりほかに道はありません。」

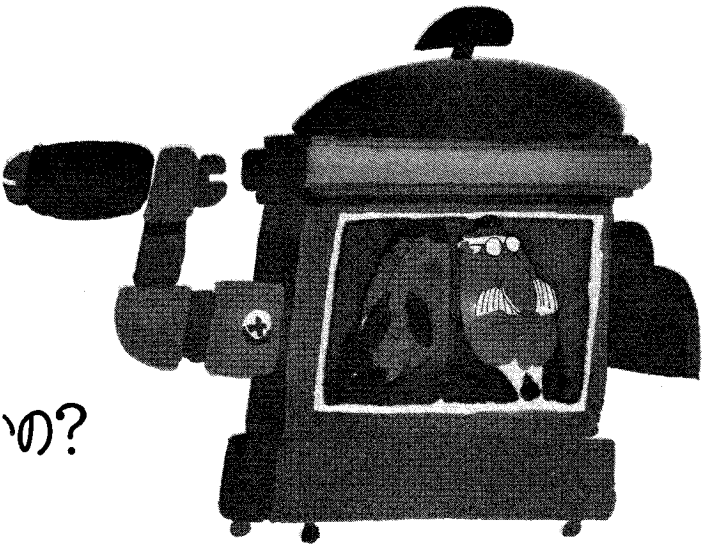
教会で讃美歌を演奏される時は，どんな心構えが必要だと思われますか。

「讃美歌は全部好きです。讃美歌の場合は特に心を込めて弾くことが大切だと思います。体調を整えて気持ちを落ち着け，心を込めて演奏するように心がけています」

◇　　◇

伊藤清兄弟は，英会話も上手です。小さい頃英語塾をたずねたところ「目が不自由だと英会話の勉強はできない」と断わられたため発奮し，ラジオ英会話を聴いて学習したということです。「一般の人なら数百円で購入できる英語の辞書も，点字では，14万円もし，とても手がとどきません。それに70数冊にもなるので，たとえお金があっても，辞書をおく場所がなければだめです。とても無理です。だからラジオで聞いたことを忘れないように覚えていくしか方法はありませんでした。」

マスコミが報じたように，伊藤清兄弟から「努力・努力　何事も努力」の証を学ぶことができます。



(むかしばなし)

うみのみずは なぜ しおからいの?

むかしむかし，うみのちかくに ヘイスティーとスイグリーという，ふたりの きょうだいが すんでいました。

ヘイスティーは きもちのやさしい ひとでしたが，とても びんぼうでした。スイグリーは，けちで，とても かねもちでした。

まつりのひが きても，ヘイスティーには たべるものが ありません。そこで おにいさんの いえに いきました。

「にいさん，たべものを わけてください。かりいれの ときが きたら，はたらいて おかえし しますから」と ヘイスティーは たのみました。

スイグリーは，ヘイスティーに なにも やりたく ありませんでした。でも，もし やらなかったら，きんじょの ひとたち から どんなに わるく いわれるか わかりません。そこで ハムを いちまい やりました。

「さあ，はやく もって おいき。かりいれの ときには，たっぷり はたらいて かえして もらうからね」と いじわるそうに いいました。

ヘイスティーは ハムを もらうと，いえに いそぎました。もりを とおって ちかみちを することに しました。ところが，いつのまにか みちに まよって しまったのです。どうしよう。こまっていると，とおくから きをきる おとが きこえてきました。いってみると，おおきな いえの まえで おじいさんが きを きって いました。

「あのう，みちを おたずね したいのですが……。」 ヘイスティーが こういいおわらないうちに とつぜん おじいさんのてから おのがすべりおちました。ヘイスティーは あわてて，おのを はねのけました。もしヘイスティーが いなかったら，おじいさんは もうすこしで じぶんのあしを きるところでした。

「あんたは いいひとじゃ。わしが けがを せぬよう たすけて くれた。おれいに いいことを おしえよう さあ，うちに はいるがいい。なかにいるやつらが きっとあんたの そのハムを ほしがるだろう。そこでな，そのハムを とのかげに ある ふるい うすと こうかんするんじゃ，いいかい，けっしてうすいがいのものととりかえちゃならんよ。もどって きたら，うすの つかいかたを おしえて あげよう。そいつはな，なんでもひきだすことが できる うす なんじゃ」と きこりの おじいさんは いいました。

ヘイスティーは おじいさんの いう とおりに しました。いえのなかには 5, 6 にんの こびとが いました。ハムの においを かぐと こびとたちは さわぎだし，ヘイスティーに ハムを せがみました。

「との かげに ある ふるい うすとなら，こうかんしよう」と ヘイスティーは いいました。

こびとたちは ハムが ほしくて，いくつも ほかの ものを だして きました。しかし ヘイスティーは くびを たてに ふりません。とうとう こびとたちは うすと ハムを とりかえる ことに しました。

おじいさんは，ヘイスティーが うでに うすを かかえて もどって くるのを みて，うれしそうに ほほえみました。

そして すぐに，うすの うごかしかたと とめかたを おしえました。「ありがとうございました。」 ヘイスティーは おじいさんに こういって，かえりみちを いそぎました。

ヘイスティーは いえに つくと，テーブルの うえに うすを おき，「おいしい ごちそうでてこい」と めいれいしました。すると，うすは まわりだし，つぎからつぎへと ごちそうを だしました。ヘイスティーの おくさんは おおよろこびです。ふたりは こんなに おいしい ごちそうを たべたことが ありませんでした。

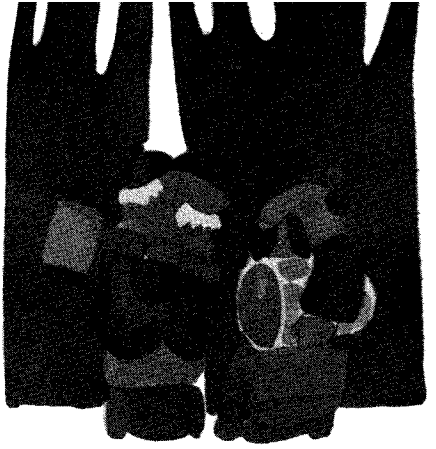
うすは たくさんの たべものやき

もの，きん，ぎん，そのほか　なんでも　だしました。ふたりは　ともだちや　きんじょの　ひとたちを　よんで，よろこびあいました。スイグリーもまねかれました。しかし　しあわせな　ヘイスティーを　みた　スイグリーは，ねたましくて　しかたありません。

「どうして　そんなに　かねもちになったんだい」と　スイグリーは　たずねました。

ヘイスティーが　うすの　ことをはなすと，スイグリーは　それが　ほしくなりました。あまり　しつこく　せがむので，ヘイスティーは　うすを　やることに　しました。

ヘイスティーが　うすの　とめかたを　おしえて　いるのに，スイグリーは　そんなことには　おかまいなしです。すこしでも　はやく　うすを　つかいたくて　しかたが　ないのです。うすを　もちかえった　スイグリーは，



すぐに　めいれい　しました。

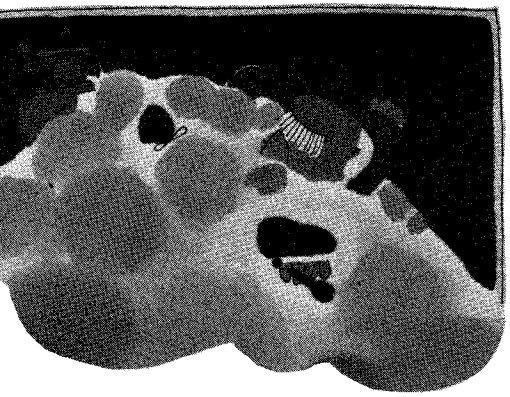
「むぎがゆ　でてこい。おれは，おいしい　むぎがゆが　たべたいんだ。」

うすは　まわり　はじめました。さいしょ　おさらに　いっぱい，それから　おけに　いっぱい，テーブルの　うえに　いっぱい，そして　みるみる　へやじゅう　むぎがゆで　いっぱいに　なって　しまいました。とうとう　にわに　まで　ながれだしました。

「とまれ，とまれ，とまれ。」スイグリーは　さけびました。しかしとまりません。むぎがゆの　なかから　ひっしで　はいだした　スイグリーは，ヘイスティーの　いえに　はしっていきました。

「うすを　ひきとってくれ。すぐにもってってくれ。なんでも　やるから，なあ，おねがいだ！」

ヘイスティーは　うすを　ひきとって　むぎがゆを　とめました。こうし



て，ながい　としつきが　ながれました。むかし　あれほど　びんぼうだった　ヘイスティーも，うすのおかげで　おおがねもちに　なり，いまでは　うみべの　すばらしい　いえに　すんでいます。その　うすを　ひとめ　みようと，たくさんの　ひとが　ふねに　のって　やってきました。

あるひ，ひとりの　せんちょうがきて　たずねました。「その　うすは，しおを　ひきだす　ことが　できるかね。ふねに　いっぱい　しおを　つんで　うりに　いかなければ　ならないんだ。」

「もちろん，できますよ」と　ヘイスティーは　こたえました。

「その　うすを　きんか1,000まいで　かおう」と　せんちょうは　いいました。

「いいえ，わたしは　この　うすを　てばなしたく　ないんです」とヘイスティーは　こたえました。

しかし　せんちょうは，なんども　なんども　たのみ，ついに　うすを　てに　いれたのでした。そして　いそいで　ふねに　のり，うみの　かなたに　のりだして　いきました。

しばらく　いくと，おとこは　ふねを　とめて，うすに　めいれい　しました。「しお　でてこい，はやく　でてこい。」

うすは　まわり　はじめました。ところが　どうしたことでしょう。スイグリーの　むぎがゆの　ときとおなじように，うすは　とまりません。ふねは　みるみる　しおで　いっぱいに　なって　しまいました。「とまれ，とまれ。」せんちょうは，さけび，なきだしました。しかし，しおは　どんどん　でてきます。かんぱんは　しおの　やまと　なり，ふねは　しずみはじめました。

ついに　ふねは　しずんで，まったく　みえなくなって　しまいました。

そして　いまでも　うすは　うみの　そこで，ぐるぐる　まわって　しおを　ふきだしている　そうです。

わたしは　だれでしょう？

モルモン経クイズ

1

1. わたしが15さいのとき，主はわたしをおとずれてくださいました。わたしはニーファイ軍の司令長官でした。また，わたしは予言者たちの記録を短くまとめて，ひとつの記録をつくりました。

2

2. わたしは，大切な記録を手に入れるために，ふたりの兄といっしょにエルサレムに帰りました。わたしは，主からめいじられることには，前もって方法がそなえられていることを知っています。

こたえ

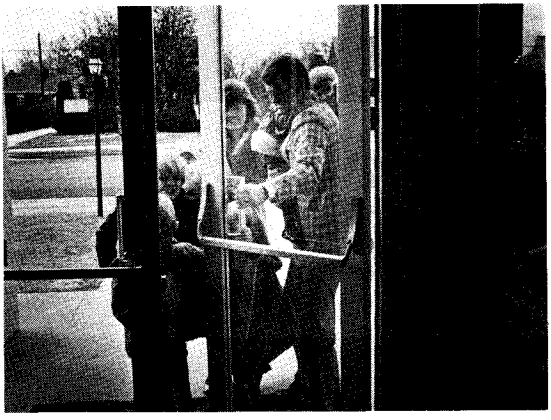
1. モルモン
2. ニーファイ
3. リーハイ
4. ベンジャミン
5. アルマ

3.わたしは，主にめいじられ，家族をつれてエルサレムの町を出ました。そして，海をわたって，やくそくの地に行きました。

4.わたしは王でした。そこでわたしは，主からうかがったことを人びとに話すため，ひとつの塔を建て，その上からみんなに話をしました。

5.わたしの父は，主のみわざを行なっていました。けれども，私と友だちは，教会の人びとを苦しめていました。ある日，天使がわたしたちに現われ，わたしたちは心を入れかえました。そして，宣教師となって，多くの人びとに福音を教えました。

コリーのかくにん

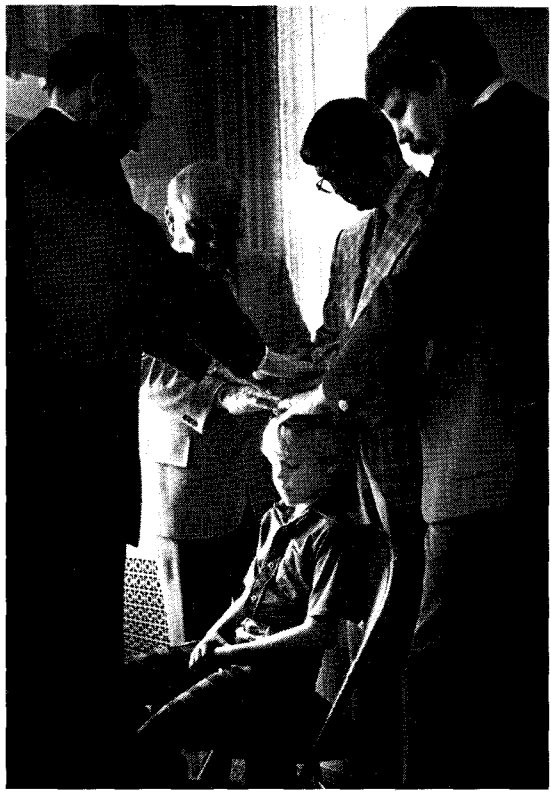


1 コリーは，きょうかいいんとしてのかくにんをうけるために，かぞくといっしょにきょうかいにいきました。

2 コリーは，かぞくや友だちといっしょにすわっています。

3 あかちゃんのしゅくふくのあと，かくにんのぎしきがおこなわれます。

4 コリーの名前がよばれると，コリーはお父さんにつれられて前に行き，いすにすわりました。コリーのお父さんとしんけんしゃたちがコリーをかこんで立ちました。



5

みんながコリーのあたまの上に手をおいて，メルケゼデクしんけんをもつお父さんはコリーの名前をよび，コリーをきょうかいのかいいんにかくにんし，せいれいのたまものをあたえ，しゅくふくしました。

6

いのりのあと，ぎしきをとりおこなった人たちは，コリーとあくしゅをしました。

ジャネットの伝道

ペギー・ミルズ

ジャネット・フッセルがダグラス支部の会員たちの前に立って，はじめて証をしたのは，わずか5さいのときでした。

ジャネットは福音を愛しており，74さいのおじさんをバプテスマへと導いたのです。

ジャネットは，大おじにあたるウィリアム・ボードの家から道路を下ったところに住んでいました。「ウィリアムおじさん」はいつも，ジャネットを見て感心していました。ジャネットはおじさんの家を何回となく訪問して，教会について話したり，おじさんの信じていることについてたずねたりしました。また，そのようなとき，福音が本当であることをおじさんによく話して聞かせました。

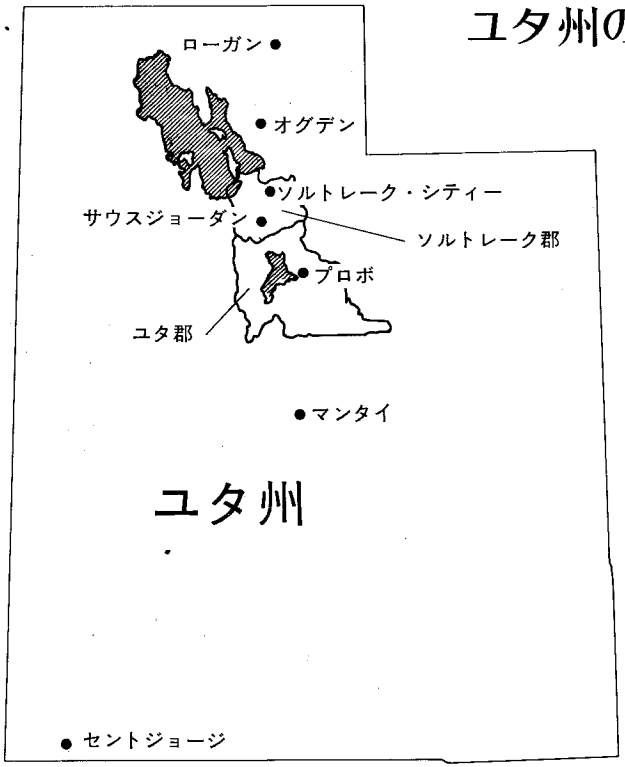
こうして，ジャネットの模範と愛によって，「ウィリアムおじさん」は教会に興味をもつようになりました。ジャネットは7さいになると，おじさんのことが心配になり始めました。おじさんもバプテスマを受ける必要があると感じたのです。そこでおじさんに伝道することにしました。

おじさんはたばこが大好きです。けれども，宣教師やジャネットからはげまされ，たばこをすて，宣教師のレッスンを勉強するようになりました。

おじさんは1900年に生まれ，これまで教会に入ろうと思ったことはなく，結婚もしていません。そして数年前に事故で右足に大けがをするまで農夫として働いてきました。

ジャネットの8さいのたん生日も近いころ，おじさんはバプテスマのチャレンジを受け，バプテスマの日が決められました。こうしてジャネットの伝道によって，ウィリアムおじさんは教会に入ることになったのでした。

ユタ州の新しい神殿発表される



去る2月3日，大管長会より，ユタ州ソルトレーク郡南西部のサウスジョーダンに，新しい神殿を建てる計画のあることが発表された。この神殿はジョーダン・リバー神殿と呼ばれ，敷地の広さは約6ヘクタールである。

この新しい神殿は，ユタ州で7番目，またワサッチ山脈沿いの地方で4番目のものとなる。この神殿が建てられることになったのは，この地方の神殿参入者が非常に多くなってきたためである。

ジョーダン・リバー神殿の設計は，教会の建築家エミール・B・フェッツァー兄弟の指示の下に，間もなく始められる予定である。また建築は，設計が完了し次第，開始される。現在の予定では，着工は今年（1978年）の後半である。なお，この新しい神殿の規模は，プロボならびにオグデン神殿とほぼ同じである。

また，過去10年間に神殿の儀式数は著しい増加を示しており，1830年に教会が組織されて以来執行されたエンダウメント総数の33パーセントが，過去6年間のものである。すなわち，エンダウメント総数53,337,080の内の17,540,332が，1972年から1977年までの6年間に執行されている。

新しい神殿地区は後日設定されることになっている。現在，ソルトレーク郡のステーキ部数は86，教会員は約348,000名であり，ユ

タ郡のステーキ部数は47，教会員は151,000名である。

「1977年のソルトレーク神殿，オグデン神殿，プロボ神殿の参入者数は，これまでの最高です。しかも今なお増加の一途をたどっています。本当に喜ばしいことです。」キンボール大管長はこう語っている。

これら3つの神殿で執行されたエンダウメント数は，ワサッチ山脈地方にソルトレーク神殿しかなかった1971年に比較すると，293パーセントの増加をみている。すなわち，1971年にソルトレークで執行されたエンダウメント数は483,985であったのが，1977年にはソルトレーク神殿，オグデン神殿，プロボ神殿で合計1,901,608となっている。すべての神殿で執行されたエンダウメントの約半数が，これら3つの神殿で行なわれている。しかし，神殿結婚が最も多いのは，今なおソルトレーク神殿である。1977年にソルトレーク神殿で結婚した男女は，6,301組にのぼる。このほかに，死者のための代理の儀式も行なわれている。

「これまでプロボに出かけて行って神殿の儀式を受けていた，ソルトレーク盆地南部に住む忠実な会員は，この新しい神殿を心から喜んで下さることでしょう」と，キンボール大管長は語った。

現在進行している5つの神殿建設計画

ユタ州ソルトレーク郡サウスジョーダンに建設されることになったジョーダン・リバー神殿は，スペンサー・W・キンボール大管長により発表された6番目の神殿である。このほかに，設計中ないしは建築中の神殿が5つある。ブラジルのサンパウロ，日本の東京，合衆国ワシントン州のシアトル，メキシコのメキシコ・シティー，合衆国領サモアの神殿がそれである。

このほかに，キンボール大管長はワシントンD.C.神殿を献堂し，増改築されたユタ州のセントジョージ神殿，アリゾナ州のメサ神殿を再献堂した。

教会の16の神殿の内で現在使用されているのは14である。合衆国内で現在儀式の行なわれている神殿は，以下の10の神殿である。ユタ州のソルトレーク，オグデン，プロボ，マンタイ，セントジョージ，アリゾナ州のメサ，カリフォルニア州のロサンゼルス，オークランド，ワシントンD.C.，アイダホ州のアイダホフォールズ。

合衆国外で現在儀式の行なわれているのは，ニュージーランド神殿，イギリスのロンドン神殿，カナダのアルバータ神殿，スイス神殿である。

ハワイ神殿とローガン神殿は現在，増改築工事中である。再献堂は，ハワイ神殿が今年の6月，ローガン神殿が年末の予定である。

ブラジルのサンパウロ神殿は，今年の10月30日に献堂が予定されている。東京神殿とシアトル神殿は，今春着工されることになっている。また，メキシコと合衆国領サモアの神殿は，現在設計中である。

自由意志か，霊感か

十二使徒評議員会会員
ブルース・R・マッコンキー

先頃，私は妻と，これまでに私たちふたりに与えられた祝福を数え上げ，それについて真剣に話し合った。教会のお陰で，家族のお陰で，また現在この世にある，栄えある永遠の回復された真理のお陰で，私たちがいただいた数々の恵みを，ひとつひとつ思い起こした。そのように話のはずんだ所で妻から「あなたがこれまでいただいてきた祝福の内で最も素晴らしいものは何？」と質問された。

私は一瞬のためらいもなく答えた。「1937年10月13日午前11時20分に与えられた祝福だね。ソルトレーク神殿の主の聖壇にひざまずいて，君を永遠の伴侶としていただいたことだよ。」

すると妻は言った。「テストに合格しましたわ。」

すべての末日聖徒にとって，この世でなすべき最も大切なことは，ふさわしい人と，ふさわしい所で，正しい権能の下に結婚することである。そして，予言者エライジャが回復した権威と権能によって結び固められたら，次はその効力が今も永世にも続くよう，交わした誓約に忠実に生活することである。ここで，物事を選択する際に応用できることを幾つか提案したいと思う。このことはあらゆる分野の選択に利用できる。とりわけ，永遠の結婚という人生最大の選択に役立つものと

思う。

天父なる神のみもとに住んでいた時，私たちは自由意志を与えられた。それによって，私たちは自分のしたいことを選ぶ機会と特権を授かった。そして,だれにも妨げられることなく，自由に物事を選択できたのである。その後，父祖アダムはエデンの園に置かれた時にこの力を与えられた。以来，その力はアダムから今日の私たちに至るまで代々受け継がれている。また，私たちは与えられている賜と才能と能力，それに感覚と判断力と自由意志を活用するようにと期待されている。

しかしその一方で，主に祈り，主のみたまを求め，自分の生活に啓示と霊感のみたまの導きを生かすようにという戒めが与えられている。教会に入る際，権能を持つ人が私たちの頭の上に手を按き，「汝，聖霊を受けよ」と言う。この儀式によって私たちは，聖霊の賜，すなわちふさわしければいつでも神会の御一方である聖霊の導きを受けることができる権利を授かるのである。

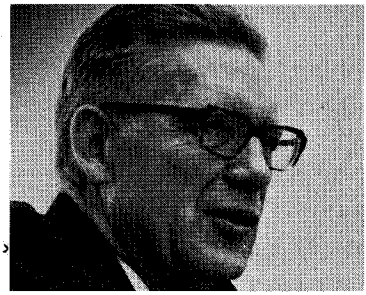
このように，私たちの前にはふたつの事柄がある。ひとつは，霊感のみたま，啓示のみたまに導かれなければならないこと。今ひとつは，自由意志に基づいて，自分のなすべきことを決めなければならないということである。しかも，人生に喜びと満足と平安を見いだし，天父の王国において永遠の報いを得る道を歩もうと思うならば上手にこのふたつのバランスをとることが必要である。

私たちが前世で天父と共にいた時，天父は私たちを観察し天父の律法に私たちがどのように従うかを見ておられた。また，私たちは，その御方が御父であり，教えが御父から出ていることを知っていた。私たちは見えるものによって歩いていたのである（IIコリント5：7参照）。そして今，天父のみもとを離れて信仰によって歩むこの世の生活で私たちがどのように教えに従うかを，天父は御覧になっている。私たちはこの世においては，かつてのように天父から直接個人的な助言を受けることができず，別なものに頼らなければならないのである。

ここで3つの事例を紹介したいと思う。これらの例から私たちが日々の生活で何をしなければならないか，その明確な答えを得ることができるであろう。この3つの例は，主から与えられた啓示の中から採ったものである。

「汝いまだ悟らず」

事例1：オリヴァ・カウドリという人がいた。この人は，モルモン経が翻訳された当時，書記として働いた。予言者がみたまの導きに従って口述翻訳する言葉を筆記したのであった。カウドリ兄弟はその頃まだ霊的に成長していなかったにもかかわらず，自分の霊性をはるかに上回わることを願い求めた。彼は予言者と同じように翻訳をしたかったのである。オリヴァ・カウドリにしつこくせがまれた予言者は，そのことについて主に伺った。そして次のような啓示を受けた。「オリヴァ・カウドリよ。誠にまことにわれ汝に告ぐ。わが『みたま』の示しによりて告げられたるわが聖典のこの部分を含める古えの古き記録なる彫刻文に就き，汝ある知識を受くべしと信じて信仰をもて真心より求むる如何なる事の知識をも，これを得んことは汝の神にして汝の贖い主なる主の今生きて在るが如く正に確なり。」



妻は言った。
「テストに合格しましたわ。」

主はこのことに関してひとつの原則を明らかにされた。それはこの種のすべての事柄に役立つものである。「然り，見よ，われ今汝に来りて汝の心の中に留るべき聖霊によりて汝の智と情に告げんとす。そもそも，見よ，これは啓示の『みたま』なり。」（教義と聖約8：1－3）

オリヴァは，私たちのほとんどが行なうと思われることを行なって，今挙げた指示を受けたのである。しかし彼は，表面の意味しか理解せず信仰をもって神に願えば，翻訳の力が自動的に与えられると誤解したのであった。オリヴァ・カウドリは霊的にさほど高くなかったため，神に願い求めるすべを心得ていなかった。信仰心をどのように起こしたらよいか，また祈りの答えを得るためには何をしなければならないかを，まだ知らなかったのである。このような状態でオリヴァは神に願い求めた。そして，御存じのように，それは失敗に終わった。一字も翻訳することができなかったのである。このことで，オリヴァはもとより，予言者も心を痛める。そしてこのことについて再び主に祈り，主から与えられていた約束について尋ねた。するとその答えが与えられた。なぜオリヴァが翻訳できなかったのか，その理由が明らかにされたのである。「見よ，汝いまだ悟らず。汝はひたすらわれに願いし時はこれを与えらるるならんと思えり。」（教義と聖約9：7）

表面的に考えると，行なうよう命じられたことは，信仰をもって願い求めることだけのように思われる。しかし，信仰をもって願い求めるということには，目指す目標を達成するために最善を尽くすという前提条件があるのである。その時，私たちは与えられている自由意志を使う。また，望みをかなえるために，与えられているあらゆる力，能力，才能を使うのである。このことは，モルモン経の翻訳だけでなく，伴侶を選ぶ場合も，職業を決める場合も，また生活の中で生じる数多くの重要な問題を解決する場合も同様に重要である。

主は続いてこう言われた。

「われ汝に告ぐ，汝心の中によく思い計り，その後願うこともし正しからば汝願わざるべからず。願うこと正しからば，その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感ぜしむ。

されどもし願うところ正しからずば，かかる感なくして汝の心は次第に鈍くなり，そはついに悪の悪たるを忘れしむるに至らん。故にわが与うるにあらざれば，聖きことを汝録すを得ず。」（教義と聖約9：8－9）

「あなたはどのようにして妻となる女性を選びますか。」私がこう質問した時，ブリガム・ヤング大学の多くの若者からこのような答えが返ってきた。「霊感を受ける必要があると思います。何らかの啓示を受けなければなりません。断食と祈りによって，自分の妻となるべき人を主に示していただく必要がありま

す。」皆さんはいささか驚くかもしれないが，私はこれまで自分の結婚相手を示して下さるよう主にお願いしたことはない。そのようなことは一度としてしなかった。私は出かけて行って，自分の好む女性を見つけた。彼女も私に好意をもってくれた。それから私は互いの状態をよく考えてみた。すると，この人こそ自分の相手だという強い気持ちがした。ここで，まだ主に相談をしていないので，すべてを完全に行なうために，その相談をしなければならなかった。しかし私が行なったことは，ただ主に祈り，自分が下した決定について導きを求めることだけであった。物事を完全に行なうためには，自分で決定したことを主のみもとに持って行き，自由意志と能力によって導き出したその結論が正しいというみたまの確認を得る必要がある。

「われに何を……願うか」

事例2：古代の記録の中で，私たちに名前が明らかにされていないひとりの男性について申し上げたい。この人はジェレドの兄弟と呼ばれている。ほかの資料から，私たちは彼の名前がモリアンキュメルであることを知っている。彼はジェレドの民の霊的な指導者であった。ジェレドの民がバベルの塔のある地を発ち，約束の地であるアメリカ大陸に向かった時，ジェレドの兄弟は主と親しく交わり，民に必要な指示とみたまの導きを受けた。

この時，非常に興味深い出来事があった。民が約束の地へ向かうにあたって主はジェレドの兄弟に「舟を造れ」と言われた。しかし興味深いことに，舟の造り方は教えて下さらなかった。そこでジェレドの兄弟は以前造った舟にならって，数隻の舟を造った。彼は造り方を指示していただく必要もなかったし，それについて啓示を受ける必要もなかったのである。こうして舟が出来上がった。

しかし，この舟を使うには幾つかの問題があった。足りないものがあったのである。そのひとつは新鮮な空気である。これはジェレドの兄弟にとって手に余る問題であった。そこで彼はこの問題を主のところに持って行った。すると主はその答えを与えて下さった。

主に相談すると答えを与えて下さるという信頼をもっているジェレドの兄弟は，もうひとつ質問をした。この問題はジェレドの兄弟が自分で解決すべきものであり，主に尋ねるまでもないものであった。「舟の中に光がないのですがどうしたらよいでしょうか。」これがジェレドの兄弟の尋ねたことであった。

この質問に対して，主はこう言われた。「汝らはその舟の中に光のあらんため，われに何をせられんことを願うか。」（イテル2：23）これはすなわち，「私に何をしてもらいたいのか。これはあなたが解決すべき問題である」という意味である。そして主は若干の事柄を述べ，同じように繰り返し問いかけておられる。「汝らが海の深みに沈める時に光あるため，汝らはわれに何を備えられんことを願うや。」（イテル2：25）換言すると，「モリアンキュメル，これはあなたの問題である。なぜ私をわずらわすのか。私はあなたに自由意志を与えている。また力と才能を与えている。自分でこれを解決しなさい。」

このように言われたジェレドの兄弟は，シーレムという山へ行った。聖典にはこう記されている。「岩から十六の小さな石を熔し出した。その石は透明なガラスのように澄んでいるものであった。」（イテル3：1）

ジェレドの兄弟はガラスのように澄んでいる16個の小石を持って（これらは両手におさまるほどの大きさだった），山頂に登った。記録によると，「ジェレドの兄弟はこれを持って山の頂上にのぼり」（イテル3：1），主にこう伺った。「主よ，あなたにしていただきたいこ

とがあります。」主がどのようなことをして下さるかあなたにはわからない。しかし，霊感を受け，自分なりの決定を下したら，そのことについて主に相談する必要がある。モリアンキュメルもそのようにし，主にこうお願いした。「この石に主の指を触れて暗やみの中にて光を出す石となしたまえ。さらば，そはわれらの造りし舟の中にて光を出し海を渡る間われらの所を照す。」（イテル3：4）

すると主は，ジェレドの兄弟がお願いした通りのことをして下さった。この時，ジェレドの兄弟は主の指を見た。また，それまでどのような予言者も経験したことのない啓示を受けた。主はジェレドの兄弟に指だけでなく，そのみ姿をも現わされたのであった。これはジェレドの兄弟が自分のできるすべてのことを行ない，さらに主に相談したからこそもたらされたのである。

これは自由意志と霊感のバランスがとれているよい例である。私たちは何を行なうにも，まずできる限りのことを行ない，それから主に答えを求めて，自分なりに出した結論が正しいかどうか確認を得るのである。すると，時として，思ってもみなかった真理や知識を得ることがある。

「彼らとわれとにて相議（あいはか）る」

事例3：教会の初期の時代に，主は聖徒たちに，ミズーリ州のある地に集合するよう命じられた。「集合」に関する指示が発せられ，また特に「管理監督がこの地に来て義務を果たす」よう命じられた。この時に何が起こったかに注意していただきたい。主はこう言っておられる。

「われわが僕エドワード・パートリッヂに関して告げたる如く，この地は彼の居住の地にして，また彼の副監督として任命したる者たちおよびわれがわが倉庫の管理を命じたる者たちの居住する地なりとす。

この故にその者たちは，彼らとわれとにて相議る通りにその家族をこの地に連れ来るべし。」（教義と聖約58：24—25）

主はシオンに「集合」するようにと言われた。しかし，いつ，どのような方法で集合するかについての細かいことは，その人が自由意志を働かせて決めるのである。けれども彼らはそのことについて主に相談しなければならない。そして，主に相談する場合自分の考えを語り，相談するのである。私が子供とある問題について話し合う時，私は「何々をしなさい」とは言わず次のように言う。「自分ではどう思うんだね？どう考えているんだい？自分では何がしたいのかね？，どうするのが一番かな？」そして子供の考えを言わせる。その問題に関して私に良い知恵や考えがあれば，私も述べる。主は全知全能の御方であるので，私たちを治め，導く完全な方法を御存じである。けれども，私たちに決定を任せて下さっている。しかし主に相談することが期待されているのである。

主はこのことを教会の管理監督に告げた後，このような場合の治め方としてひとつの原則を示し，どのような場合でもこの原則を応用するようにと言われた。これは私たちにとって実に大切な真理である。

「見よ，われ汝らにすべての事を懇々（ことごと）く命ずるは至当ならず。そは，すべての事已（や）むを得ざれば為さざる者は怠惰なり，賢き僕にあらざればなり。これを以（もっ）て彼は良き報いを受くることなし。

われ誠に汝らに告ぐ，人は努めて善き業に従い，多くの事をその自由意志によりて為し，多くの正しき事を為し遂げよ。

そは人自らの中（うち）に自由の意志ありて己れの事を自ら為す者なればなり。従って人善を為さば決してその報いを失わざらん。

「私はあなたに自由意志を与えている。
また力と才能を与えている。
自分でこれを解決しなさい。」

されど命令を受くるまでは何事をもなすことなく，疑いの心を以て命令を受けこれを不精不精に守る者は救われず。」（教義と聖約58：26—29）

予言者ジョセフ・スミスは「このように大勢の，しかも人生経験を異にする人々を末日聖徒としてどのように治めるのですか」という質問を受けた時，「私は人々に正しい原則を教え，人々に自らを治めさせます」と答えた。

これが天の秩序である。これが全能者の治め方であり，教会が行なおうとしている方法である。私たちは正しい原則を学び，自らを治めるのである。物事を選択する場合，まず自分なりの答えを出し，それを主のみもとへ持って行き，承認の印を受ける必要がある。

「汝のする一切の働きについて
主のみこころを伺え」

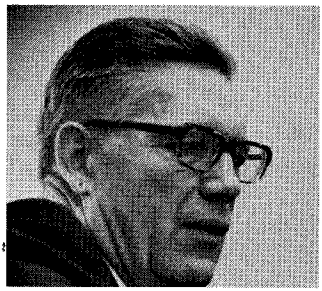
以上の3つの事例から，結論を導き出そう。

アルマという優れた偉大な予言者がいた。彼にはヒラマンという息子がいる。ヒラマンは心の清い義しい人で，父アルマの立派な模範に従った。そのヒラマンにアルマはこう言っている。「わが子よ，忘れずに青年の時智恵を得よ。青年の時から神の命令を守ることを習慣とせよ。汝の要する一切の助けを神に祈り求めよ。」（アルマ37：35—36）物心両面の援助を主に求めて祈るようにと言われた場合，あなたがなすべきことはただ祈ることだけだろうか。「わたしたちの日ごとの食物を，きょうもお与えください。」主の祈りにはこう記されている。ではあなたは，砂漠か，あるいは山に出て行ってそこに座り込み，「わたしたちの日ごとの食物を，きょうもお与えください」とあらん限りの思いを込めて祈るだけでよいのだろうか。それとも，出かけて行って作物の種をまき，家畜を飼い，望みがかなえられるようその時自分にできるすべてのことを行なわなければならないのだろうか。

聖典はさらに告げている。「何事でもすべて主のために為せ。どこへ行くにも主のために行け。常に主を念頭に置いて心の愛情をとこしえに主へ向けよ。」（アルマ37：36）そして次の聖句に注意していただきたい。「汝のする一切の働きについて主のみこころを伺え。そうすれば主は汝の為になる善い誡めを与えたもう。」（アルマ37：37）

オリヴァ・カウドリの場合の問題点は何であっただろうか。「汝はひたすらわれに願いし時はこれを与えらるるならんと思えり。……汝心の中によく思い計……ざるべからず。」（教義と聖約9：7—8）

あなたは良き伴侶を得たいとお思いだろうか。正しい，適切な結論を出したいと思っているだろうか。それならば努力をしなければならない。神から与えられた自由意志と力と能力を使う必要がある。自分の能力を結集して，あらゆる角度から問題を考え，自分なりの結論を出す。そして，誤っていないことを確認するために，それについて主に相談する



のである。「私はこう考えていますが，お父さま，あなたはどう思われますか」と祈る。そして，聖きみたまによってのみもたらされる穏やかで快い確信を，得たならばあなたの結論は正しいことがわかる。しかし，不安を感じ，確信が得られない場合には，もう一度始めからやり直すとよい。そこには主のみ手がないからである。聖霊の賜を授かり聖霊を受ける権利を持つ教会員として主の承認の印を得ることができなかったからである。

「眠っている間も主が見守りたもうよう夜寝る時には自分の身を主に任せて寝よ。そして朝起きる時には神に感謝する念を胸に満せ。このようにすれば終りの日に高く挙げられる。」（アルマ37：37）あなたが神から与えられた自由意志の使い方を学び，自分なりの決定を下し，それが適切であるという結論を出し，主に伺って，承認の印が得られたら，その時あなたは啓示を受けたことになる。すべてのことをこのような方法で行なえば，永遠の生命という偉大な報いを受け，終りの日に高く挙げられるであろう。私たちは，皆それぞれに異なっている。人の才能と能力は様々である。しかし，私たちは自分に与えられている才能を生かせばそれでよいのである。

ある祝日の月曜日のことだった。私は裏庭で丸太を切っている母のところに行った。すると母からその仕事を言いつけられた。そこで私は母から2言3言注意を聞くと，丸太を切り始めた。しかし，母は私の仕事振りがあまり気に入らないふうだった。私の切り方を下手だと思ったのである。そこで母は家の中に入ってしまった。それから数分もしないうちに弟がやって来た。「裏庭へ行って，ブルースの手伝いをしなさい。上手にできるようにしてあげてね」と母から言われたのだった。そしてもう一言，「ブルースは上手じゃないから」と言われたのである。その通り，私は丸太を切るのが不得手である。従って私はその不得手な状態から自分の進歩をめざさなければならない。自分に与えられている才能を使い，永遠の真理の原則に従って生活を始めるのである。そして，その過程で主に相談をする。どこにいようと，福音は私を進歩させ，高め，祝福を注いでくれる。そして来るべき世において栄光と誉れと尊厳とをもたらしてくれるのである。

私たちには啓示のみたまがある

私はお話したいと思っていたことをほとんど申し上げたように思う。つまり，原則は私たちの前にあるのである。しかし最後にもうひとつお話したいと思う。それは，私が友達のように感じているアルマが行なったことである。アルマは説教を述べた後，こう語った。「これればかりではない。あなたたちは私自身これらのことを知らない者であるとは思わないか。ごらん，私は自分がこれまでに話したことはみな本当であると自分で知っていることを証する。」（アルマ5：45）このように，

「私たちには啓示のみたまがある。」

アルマは人々に事例を挙げ，啓示を引用し，それに関係することを話し，それから自分の証を述べた。これこそ，私たちが教会にあって行なうべきことである。私たちはみたまの力によってどのように教えればよいかを学ばなければならない。そうすると私たちが福音について話す時に，自分の語っていることが正しいかどうかがわかる。また，真理とみ業の神聖さだけでなく，私たちが述べる教義と永遠の真理が確かなものであり，それらが主のみこころでありみ声であるということをも証することができる。この業とこれらの教義について栄えある素晴らしいことは，これらが真実であるということである。私たちの携わっているみ業が真実であり，主のみ手がこのみ業にあるという真理に勝るものはこの世にないし私たちはこれ以上の真理を見いだせない。これは，私たちが聖霊の賜と力をいただいているという事実を証するものである。私たちには啓示のみたま，証のみたま，予言のみたまがある。これらはなくてはならないものである。さもなければ，この教会は神の王国ではないし，私たちは主の民ではない。

現実に，私たちはこれらのみたまを受けている。啓示を実際に受けているのである。啓示を受けることにしりごみしてはならない。ジョセフ・スミスはこう言っている。「神はジョセフに啓示したことで，十二使徒に知らせないことはなかった。また，たとえ聖徒たちの最も小さき者であっても，それを受けることが可能であれば，すぐさますべてのことを知らせて下さる。」(*Teachings of the Prophet Joseph Smith,*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p. 149) 私たちには啓示のみたまを受ける権利が与えられている。しかし，そのためには方法と手順があるということを申し上げたい。みたまを受けるためには，幾つかの条件があるのである。私たちがなすべきことは，まず問題に取り組み，主に相談し，自分なりに出した結論に対してみたまの承認の印を得ることである。この承認の印を押すのが啓示のみたまである。

神はこれらのことについて私たちに知恵を与えて下さった。また，勇気を与えて下さり，自らの足で立ち，与えられている自由意志と才能と能力を使いこなす力をも与えて下さった。従って，謙遜になり，みたまに快く従って自分の意志を主のみこころに添わせ，主の承認の印を受け，啓示のみたまに従って生活をしようではないか。そのように行なうなら，どのような結果になろうと心配するには及ばない。この世にあっては平安を得，来るべき世にあっては栄光と誉れと尊厳とを得られるからである。

☆　　☆

日々の恵み

4回目のバプテスマ

バージニア・A・トラバリーニ

ユダヤ人の母と，イタリア人でカトリック教徒の父と，妹，それに私の4人は，私が2歳になるまで父方の祖父母といました。妹が生まれると祖母から，子供たちにカトリックの洗礼を受けさせなさいと何度も言われました。そこで，波風を立てないために，父も母もその言葉に従いました。その結果，私は1歳1ヵ月で最初のバプテスマを受けました。

また，子供時代はボストン市のフェンウェー公園の近くに住んでいました。そして妹のナンシーと私は週末になると，ボストン郊外に住んでいた父方の祖父母と母方の祖父母の所へ順番に遊びに行っていました。

ふたりで父方のナナおばあさんに連れられてカトリック教会へ行き，ミサを聴き，クリスマスと復活祭を祝いました。

ナナおばあさんの家へ行った翌週は，母方の祖父母の所へ行き土曜日の安息日を守りました。聖日には，会堂に行き，また過越の祭とハヌカー祭（燈火の祭）を祝いました。

両方の祖父母とも，英語はほとんど話せませんが，それでも精一杯私たちに宗教の話をしてくれました。その宗教教育は興味がありましたが，何にもなりませんでした。どちらも私の疑問に答えてくれなかったからです。

そのようなことが13歳になるまで続きました。そして，その年に私の父がフリーメイスン団に入団し，友人の勧めで私たちに英国聖公会の洗礼を受けさせることになりました。

私は聖公会の信徒として毎週教会に通い，青年団で活発に働きました。この新しい教会で私はたくさんの質問をしました。しかし，答えはほとんど得られませんでした。私は心の満たされないまま毎日を過ごしていました。その間も，週末には両方の祖父母の家で過ご

すのが習慣でした。

こうして16歳になった時，私はイタリア人の祖父母の宗教をもっと詳しく研究しようと心に決めて，カトリック教会に行くようになりました。そしてしばらく勉強してから，3回目のバプテスマを受けました。教会にはきちんと出席しました。その後，私はカトリック教会で結婚式をあげ，生まれた子供たちはカトリック信仰の下で育てようと努めました。

私は良い家庭を築こうと努めたつもりでしたが大きな問題が幾つか生じました。やがて離婚話が持ち上がり，私は教会の指導者に霊的な導きを頼って行きました。けれども満足な結果は得られませんでした。

当時私たちの住まいは，ボストンの北西45キロ程にあるジョージタウンにありました。そして隣に，ユタ州のブリガム・シティーからデビルビスさんの一家が引っ越してきたのです。私はその家族の引っ越しを手伝い，昼食に招待しました。ところが買ってきた飲み物をすすめたところ，飲めませんからと断わられました。そこで，そのわけを尋ねました。すると「私たちはモルモンですから」という返事でした。私は「ええ？モルモンって何のことですか」と聞き返しました。

私はこの時まで，「モルモン」についても，「ジョセフ・スミス」についてもまた「末日聖徒」についても聞いたことがありませんでした。ただソルトレーク・シティーという町があり，そこに宗教団体の本部があるということだけは知っていました。けれどもその信者がどういう人たちで，どんな教会かということは全く知りませんでした。その時まで，全然興味がなかったのです。

デビルビス家のレオーナさんとリーさんは良い方々でした。教会の教えに従って生活し，家庭は愛と平安に満ちていました。そして私を受け入れ，愛し，理解して下さいました。また，私がする質問に一つ一つ快く答えて下さいました。答えがわからない時は，本や定期刊行物などで調べて教えて下さいました。そのようなことが5年間続きました。

私が離婚手続きをとる時は，家族よりも私のことをよく理解して下さいました。家族にも大勢の友人たちにも理解してもらえなかったのに，ふたりは私を信頼し，そんな気持ちになったわけを理解して下さったのです。デビルビス夫妻は私にとって本当に大きな支えでした。いつ行っても私を歓迎して下さり，家庭にはいつも愛が満ちていました。ある時，そのことをレオーナに話し，「それが私の理想なのよ」と言ったことがあります。

するとレオーナは，「私の教会に来ることね」と言いました。私もその通りだと思いましたが，それ以上はお互いに何も言いませんでした。デビルビス夫妻は宗教に関する質問には喜んで答えて下さいましたが，何も強制はしませんでした。

ある晩，ふたりと楽しい時間を過ごした後子供たちを寝かせ，私もベッドに入りました。その夜，私は夢を見ました。それはデビルビス夫妻の教会で幸福になれるという強い印象を残した夢でした。私は目を覚ますと，夢のことについて考えました。それからまた眠りについて，また同じ夢を見ました。この時の印象は前にも増して強烈で，また目が覚めました。朝の7時でした。私はうれし涙を流しながら，レオーナに電話をしました。レオーナとリーは私を迎えに来て下さって一緒に，ニューハンプシャー州で開かれるステーキ部

大会に出かけました。

私はふたりに思いつく限りの質問をしました。するとふたりは次々と答えて下さいました。どれも胸が躍るような素晴らしい答えでした。けれども私がリーに教会のことを教えて下さいとお願いすると，彼はケンブリッジにいる宣教師の所へ行った方がよいと言いました。

私が「でも，知らない方だから」と遠慮すると，リーは正しい方法で勉強しなければならないと言いました。そこで一緒にケンブリッジで聖餐会に出席し，それから私は伝道本部を訪れました。本部には3人の長老がいました。ヤング長老と，ウィルソン長老と，ブロジェット長老で，みんなソルトレーク・シティーの出身でした。私が中に入って「勉強したいのですが……」と言っただけで，長老たちはいっせいに席を立って来て，私を歓迎して下さいました。それから3週間後に，私は4回目の，そして最後のバプテスマを受けました。神権の権能によって正しい方法でバプテスマを受けたのでした。

私は強い証を持っています。そして，何年間も心の中で解けなかった数々の疑問に対する答えを今は持っています。天父は私を愛して下さっています。私は天のお父様にとって大切な人間なのだということがよくわかります。マサチューセッツ州で私は素晴らしい人に福音を宣べ伝えることができて，彼は教会に入りました。そして，私たちは神殿で今も永世にもわたる結婚をしたのです。

それができたのは，自分の力によってではありません

カーマ・N・カトラー

ある時，私たちは日曜学校で，モーセがイスラエルの民に水を与えることのできた奇跡に主のみ手を認めなかったことについて話し合いました。元ステーキ部長であった私たちの教師は，指導者のした仕事を必要以上にほめすぎると指導者自身を「良くない」状態に追いやることがあると語りました。それがどういうことかわからない生徒は大勢いました。どうしてそれが問題なのだろう？けれども，私にはよくわかりました。そこで私は，最近のちょっとした経験をみんなに話しました。

私はステーキ部のローレルの標準の夕べで話を頼まれていました。私はその責任のことを考えて祈りました。すると，一日に何回か霊感を感じました。そこで，静かな夜に話をまとめる仕事に取り掛りました。話のまとめを終えて，割り当ての時間はこれで埋まると

思った時に，不意にこのテーマに関する説教や記事が次々に頭に浮かんできました。私は「天のお父さま，あまり資料が多すぎます。30分しか割り当ての時間はありません」と，静かに祈りました。

すると，心に次のような言葉がはっきりと浮かんで来たのでした。「全部を書いてみて，声を出して読みながら時間をはかりなさい。」

「それはいいわ。」私はそう考えて実行してみました。すると驚いたことに，話の時間は丁度30分でした。準備完了！私は部屋中駆けまわりたいようなうれしい気持ちになりました。

ローレルの標準の夕べの前日に，話をするには霊的な準備が必要だと感じたので，その晩から断食をしました。翌日の午後，私は部屋に入って話の練習をしてみました。すると意外なことに話を思い出せないのです。「どうしたらよいのでしょうか？」私は狼狽して主に祈りました。「原稿を読まなければだめでしょうか。そんなことをしたら，話よりも私にみんなの注意が集まってしまいます。」

すると非常に強烈にひとつの考えが浮かんできました。「原稿は家に置いて行きなさい。」

私は躊躇しました。「そんなことはできません。御存知のように，私は記憶力が悪いのです。」

しかしまた，「家に置いて行きなさい」と心に訴えるものを感じました。

私は恐れ懇願しました。「初等協会の会長の時，前に立って話をしようとしたら言葉が全然出て来なかったというひどい経験をしています。その二の舞いを踏ませないで下さい。」

しかしそれでも，「家に置いて行きなさい」とみたまによって感じたので，心を開き，「置いて行くなら，あなたの助けにすべてをゆだねることになります」と祈りました。すると，みたまによって，話の原稿を家に置いて行く方がよいという確信が静かに心に満ちてきました。

その夜，私はハンカチだけを持って家を出ました。けれども，自分の部屋をちらっと見上げると，さすがに心細さを感じました。会が始まるのを待ちながら，礼拝堂でもう一度，話をまとめてみようとしましたが，どうにもまとまりません。私はうろたえ，祈りました。するとすぐに，主がついておられるという確かな慰めを感じたのでした。

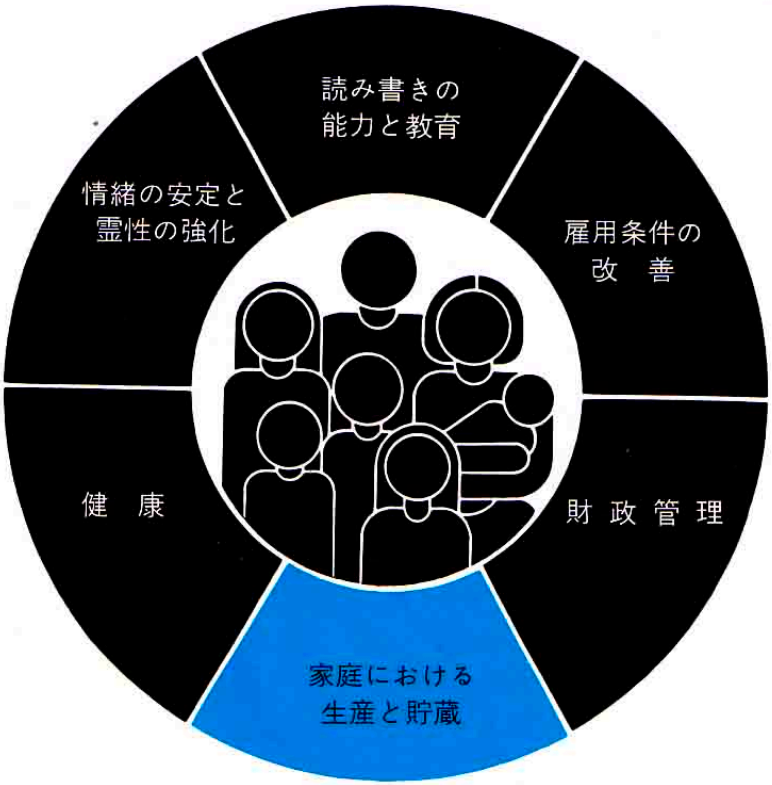
やがて時間になり，私は確信を胸に，30分の話をしました。とても信じられないような素晴らしい霊的な体験でした。

会が終わると，数人の人が私のところに来て，ほめて下さいました。でも私はありがとうと言う気持ちにどうしてもなれませんでした。口ごもるように数回お礼を言うと，出口を捜しました。家に帰りたかったのです。私にそれができたのは，自分の力によってではなかったからです。

あの経験を振り返って，良い話をして下さった人に言う一番親切な言葉は，「霊感あふれたお話をありがとう」とか，「あなたのお話に主のみたまを感じましたよ」という言葉ではないかと思います。その人を誘惑にあわせることがないように。

（カーマ・N・カトラー　主婦，6人の子供の母親で，ボイシ・アイダホウェストステーキ部ボイシ第23ワード部ビーハイブアドバイザーを務めている）

家庭における
生産と貯蔵について



家庭における生産と貯蔵は，個人と家族の備えという教会のプログラムの中でどのような位置にありますか。

教会の主なプログラムはすべてそうですが，備えも個人と家族が中心になっています。そして非常事態ではなく，将来を見越した生活を送るという考え方がその根底にあります。従って，家庭生産は，個人と家族の備えの6つの分野の内のひとつに過ぎません。その6つの分野をあげてみましょう。

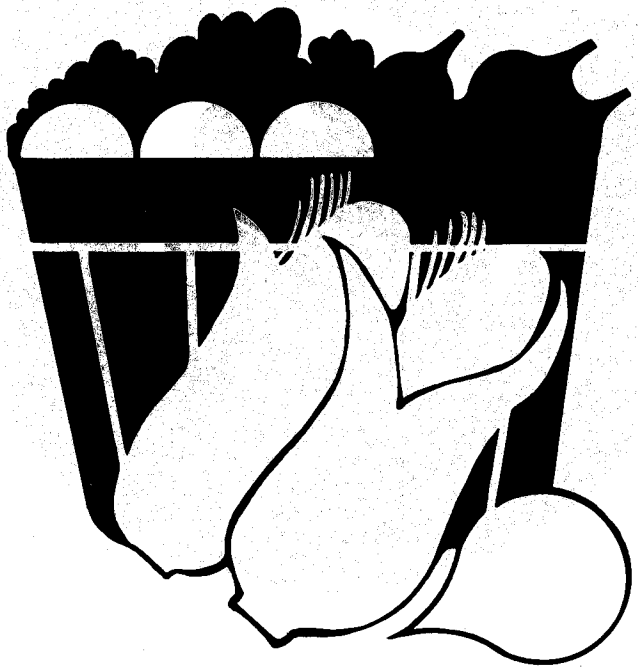
1．読み書きの能力と教育　備えのできている人は，読み書きと基本的な計算ができます。聖典や良書を定期的に読み，地元で利用できる手段を使って家族全員にこれらの技術と習慣を身につけさせる人です。両親と子供たちは，公共の教育機関その他を利用します。

2．雇用条件の改善　すべての家長は，適切な職業に就くようにし，また職業上の技術を伸ばすために努力すべきです。また，青少年に，将来家族の経済的必要を満たし，達成感が得られる職業を選択できるように助言し，その能力を身につけさせるようにします。

3．財政管理　備えのできている人は，予算を立て，什分の一と献金を納め，消費を収入の範囲内にとどめ，お金を節度をもって使い，貯蓄に努め，収入のある時は収入のない時のために貯えます。

4．家庭における生産と貯蔵　家庭菜園，裁縫等によって，できるだけ自家生産するように努めます。食物の貯蔵法，食物の冷凍と乾燥の技術を修得し，さらに法律で認められている地域では，1年分の食糧，衣料，可能であれば燃料をも貯蔵します。

5．健康　知恵の言葉を守り，栄養の原則，



体重の調節，予防接種，家屋内外の衛生，妊産婦と乳児の健康，事故の予防，歯の健康，医療に関する正しい原則を実行します。また，応急処置，家庭看護，食物の選択と調理に関する技術を身につけておきます。

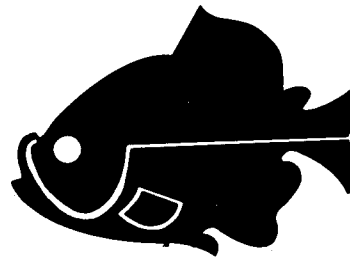
6．情緒の安定と霊性の強化　人生で遭遇するチャレンジやストレスに対して揺るぎない自信をもって立ち向かうには，霊的な強さを築き上げておかなければなりません。この強さを得るには，神を愛し，個人の祈りによって神と交わり，隣人を愛し，隣人に奉仕し，さらには正しい生活と自制により自分自身を愛と尊敬の気持ちを持って見ることができなければなりません。情緒の安定は，啓示により明らかにされた家庭生活に関わる原則に従って霊的に成長してはじめて得られる祝福です。このことを各家族が理解しなければなりません。

父親と母親が，以上のすべての分野について積極的に計画を立て備えをするならば，家族も教会も調和のとれた大きな力を蓄えることができます。また，家族に時に対する備えができるだけでなく，物を節約し、賢明に管理し，問題を避け，最良の日常生活を送る能力も身についてきます。

個人と家族の備えこそが，教会の福祉プログラムにおける自立と家族の安定の鍵を握っているのです。

広域災害や流通制度が混乱した場合に，教会はどの程度教会員を援助できますか。監督の倉庫で全会員の必要品をまかなえるのでしょうか。

監督の倉庫は，通常の状態で困窮者を援助するために利用されるものです。ですから，



倉庫には現在の必要を満たす日用品が1年分しか用意されていません。そのため，教会の全家族をそれだけの物資で支えることはとうてい不可能です。

局地的な災害，例えばアイダホ州のティートンダムの決壊のような場合には，教会の生産・配送部が監督の倉庫を含む教会の諸施設を動員して，被災者救援にあたります。しかし広域にわたる災害が発生した場合は，監督の倉庫があっという間に空になることでしょう。

家族の1年分の貯蔵が大切なひとつの理由はそれです。平生は，福祉生産事業で必需品は充分供給できますし，採算も取れます。しかしもっと切迫した事態になれば，教会員は自分で蓄えた食糧に頼りながら，教会の指導者と共に，作物や日用品の生産に従事することになるでしょう。

家庭における生産と貯蔵の分野で，私たちは具体的にどのような責任を負っているでしょうか。

教会員の福祉を図る責任はまず本人，次に家族，最後に教会が負います。この原則に則れば，家族は家庭で生産と貯蔵を行ない，自立と自給自足を心がけるはずです。その手段としては，

1．所有の土地で作物を栽培する。また，可

能な限り食物以外の物も自家生産する。

2．その生産物の最も良い保存法を知る。

3．土地に合った最良の方法で食糧やその他の物資を上手に保存する。教会は最低1年分の食糧や衣料品できれば燃料も保存するように奨励しています。水の保存も大切です。保存食糧はその家庭の食生活に合ったもので，主食を手始めに徐々に増やして行くとよいでしょう。(聖徒の道 1976 年 8 月号，pp. 430—32；1977年 2 月号，pp. 159—60参照)

4．現在所有している物を上手に使い，倹約に努め，浪費を避ける。

1年分の生活必需品というと大変な費用がかかります。今すぐには用意できません。しかし家族にとって大切なことなので実行したいのですが，借金してもよいのでしょうか。

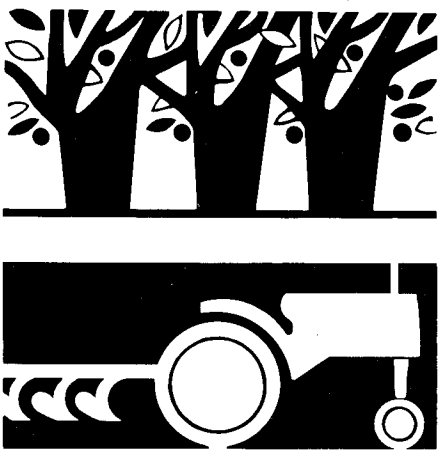
それはよくありません。教会では，このようなことで借金をしてはいけないと教えています。

教会の福祉プログラムが開始された時，J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は次のように勧告しています。「災難を避けるがごとく借金を避けようではないか。今借金があるならばそれは返そう。きょう出来なければ明日にでも。自分の収入の範囲で堅実に生活して，何がしかを蓄えようではないか。」(「大会報告」1937年 4 月〔英文〕p. 26)

私たちはこの勧告を今も遵守しています。貯蔵は非常に大切ですが，ひとつの原則を守るために別の原則を破ってよいわけがありません。

しかし，収入の範囲内で整然と主要な日用品を確保する計画を立てれば，両方の原則をどちらも守ることができます。食糧貯蔵を始めるのに，借金をしなくても，ほかに方法はたくさんあるはずです。

キンボール大管長はこう言っています。「備えは不意に投機的に行なうものではない。それは正しく追求する時に，生活の一部となるものである。」(1976年10月地区代表セミナーにおける説教)



1年分の貯蔵がなぜ必要なのでしょうか。教会の生産事業は教会員の必要を満たすためのものではないのでしょうか。

教会の生産事業の第一目的は監督の倉庫に食料品や日用品を供給することです。監督や支部長は必要な時にこれらの物資を利用して困窮者の援助を行ないます。

また，生産事業自体があらゆる年齢，境遇，環境の教会員同士が一緒に，あるいは親子で肩を並べて働く機会ともなっています。それは時間と才能を捧げ，分かち合い，兄弟姉妹の愛を深め合う良い機会です。また特に，有益な仕事場として，教会員がいざという時の自立と自給自足に必要な技術を修得するのにも役立っています。

教会生産事業の多くを占めるのが農業，すなわち農場，果樹園，酪農品加工，畜産，養蜂，養鶏です。ほかにも，かん詰やパン，その他の製造事業があります。

教会員にはワード部や支部を通して与えられる割り当てに従って働く義務があります。それは良い機会です。このようにして常時，日用品を供給します。また教会員は，惜しみなく断食献金と福祉基金を納めて，自分に与えられているものを捧げ，ワード部や支部の困窮者の必要を満たせるようにします。

食糧貯蔵を行なうことが法律によって禁じられている国の教会員はどうすればよいのでしょうか。

一般市民の食糧貯蔵を法律によって禁じている国が少数ながらあります。しかし，法規が制定された当時と今では状況が変わっていて，もはやその法律が不要だというのが大半です。例えば，食料不足のため貯蔵が深刻な問題になった戦時中に定められた法律が多くあります。このような場合は，教会員や市民が法律改正の運動をすることもできると思います。それができなければ，別の方法を取ります。

その一例が，家庭生産に励むことです。食料品以外の生産にも熟練し，倹約と勤勉の原則を身につけます。また，菜園を造り，そこに各種の作物をそのまま貯蔵するという方法があります。

もうひとつは，「生きたままの貯蔵」です。家の中で食糧貯蔵をすることが違法な国でも，牛，鶏，山羊，羊，豚を庭先などに飼って，主要食料のかなりをまかなうことは可能です。

また，大量の貯蔵が違法でも，数週間分を蓄えることは差し支えないものです。

学生や頻繁に引っ越す人，アパートの狭い部屋に住んでいる人も，食糧や日用品を貯蔵しなければなりませんか。

狭い部屋に住んでいる人，引っ越しの多い人，まだ自分の家庭を持たない学生たちは，どんな状況にあっても個人や家族の福祉については本人に第一の責任があるという原則をふまえて，自分に必要なもの，優先させるべきものをよく考えてみて下さい。扶助協会中央管理会会長のバーバラ・B・スミス姉妹は，ヤングアダルトの姉妹たちも食糧貯蔵に着手すべきかどうかと尋ねられた時に，次のように返答しました。

「学生の内から手広く食糧貯蔵を始めなさいとは奨励されていませんが，将来を見越した生活をするようにすべきだと思います。将来のために計画し，予算を立て，貯蓄する方法を学ぶことが大切です。1，2週間ではな

く，もっと長期間分の食料品を用意しておくことができると思います。また，上手な買い方を身につけることもできるでしょう。」（*Ensign*「エンサイン」1977年3月号，p. 37）

しかし，学生結婚をしている人や学校を出て独立している人，また狭いアパート暮らしや引っ越しが当分続くような人は，何か工夫する必要があります。「空間が狭くとも，小麦，脱脂粉乳，砂糖，蜂蜜，塩などを貯蔵することはできる。タンス，屋根裏，その他空間を使えば食糧を貯蔵することができる。全く貯蔵食糧を持たないよりも，数カ月分の食糧でも貯蔵しておく方がよい。」（パンフレット「家庭貯蔵計画の基本」）

このような状況の人々には，まだ別の貯蔵方法があります。

1．何かと兼用する。例えば，マットレスを置く台にする。

2．似たような状況にある家族と共同で地域に貯蔵物資を蓄え，引っ越したあとでも別の人がそれを引き継げるようにする。（これはあくまでも理想案ではなく，代案です。緊急事態が発生すれば，私たちは手持ちの食糧を人々に快く分け与えるはずです。）

3．状況が許せば，非常時に分けてもらうという約束のもとに自分の両親や家族同然の人々の食糧貯蔵計画に加えさせてもらう。

熱帯，亜熱帯地方の人々にはどのような方法があるでしょうか。

暑い地方では温暖な地方にできない良い方法があります。一年中いろいろな果物や野菜が栽培できるので，穀類の代わりにタロ芋，カサバ，さつま芋をそのまま畑にねかせておくとよいでしょう。また，粉ミルクの代わりに魚や鶏や豚が利用できます。

熱帯の高温では貯蔵食糧の傷みが早いので，温暖地方で1年置けるものも数カ月で回転させるようにします。また食糧は一番涼しい所に貯蔵して下さい。乾燥食品は多湿を嫌いますので，乾燥した場所に保存して下さい。

霊の飢え

ウィリアム・G・ダイヤー

第二次世界大戦が終わるとすぐに，私は大学に入り，大学のワード部に出席した。そのワード部で私の出席した日曜学校のクラスの教師は，私と同じように帰還軍人で若い人だった。ある日，彼は兵役中のある経験を話してくれた。末日聖徒の軍人の集会に行く途中，彼は幼な友達に会ったという。その友達も末日聖徒だった。そこで一緒に集会に行こうと誘ったところ，友達は言った。「ああいう集会に行くのはやめたんだ。」

「どうしてだい。」

「これまで何年間も教会へ行ったけど，何ひとつ覚えちゃいない。日曜学校のレッスンひとつ覚えていないからさ。君は先週，日曜学校と聖餐会に行っただろう。」

「ああ，行ったよ。」

「どんな話だったか覚えてるかい。どんな話だった。」

「正直に言って覚えていないよ。」日曜学校の教師は答えた。

すると友達は言った。「じゃあ，なぜ行くんだい。覚えもしないのに，なぜ，行くんだい。」

私は教師の話を興味深く聴いていた。というのも，先週の日曜日の聖餐会の話を思い出そうとしたところ，私自身思い出せなかったからである。そこで私は，日曜学校の教師が何と答えるか，次の言葉を待った。彼はこの友達に次のように言ったのであった。「君は日に3度，食事をするだろう。」

「ああ，するよ。」

「君は，毎日食事をしてきたわけだ。ところで，先週は何を食べたか覚えてるかい。」

「いいや。」

「じゃあ，先週の日曜日に何を食べたか思い出せるかい。」

「いや，思い出せない。」

「それじゃあ，なぜ食べるんだい。食べたものを思い出せないというのに，なぜ食べるんだい。」

すると友達は答えた。「食べなければ生きて行けないからさ。決まっているだろう。飢え死にしてしまうよ。」そこで日曜学校の教師は言った。「ぼくが集会に行くのも同じ理由さ。ぼくたちの霊にも，ある量の糧が必要なんだ。もしそれをとらなければ，霊が死んでしまう。ぼくはそうなりたくないからねえ。」

聖徒の道
1978年5月20日（毎月1回20日発行）　第22巻第5号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可